

遊佐町埋蔵文化財調査報告書 第5集

小山崎遺跡

第12次発掘調査報告書



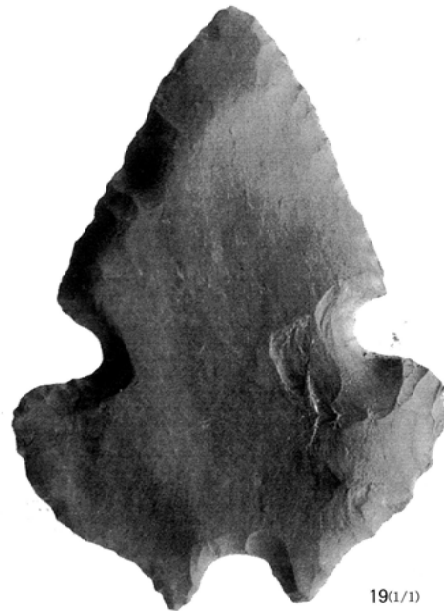
2006.3

山形県遊佐町教育委員会

遊佐町埋蔵文化財調査報告書 第5集

小山崎遺跡

第12次発掘調査報告書



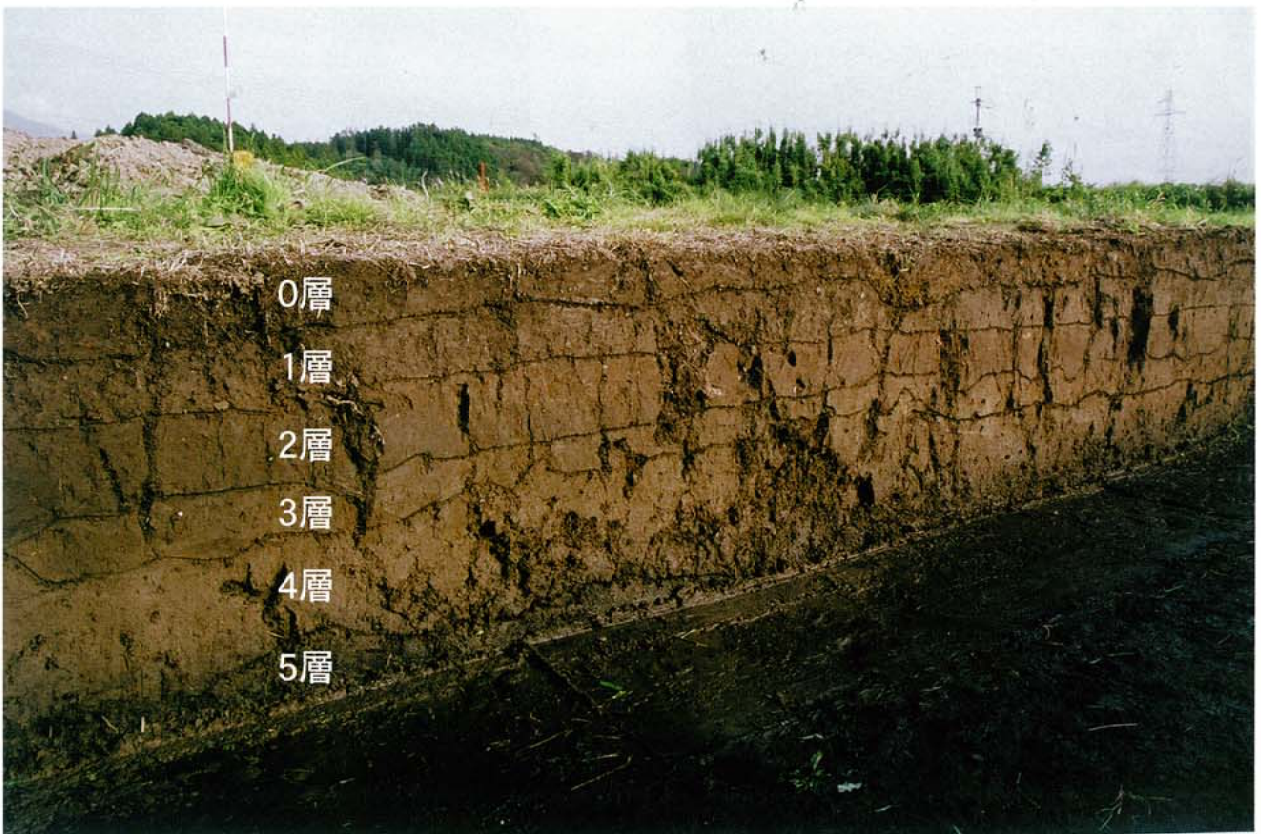
19(1/1)

2006.3

遊佐町教育委員会



1 航空写真



2 第I調査区南東部土層断面(東壁)



3 深鉢形土器(92)接合状況



4 深鉢形土器(91)



5 第Ⅱh調査区出土状況
深鉢形土器(93)



6 第Ⅱh調査区出土状況



7 獣骨類出土状況(第Ⅱh調査区5層北端)



8 へら形骨角器(RN23)
(第Ⅱh調査区5層)



9 イノシシ距骨(RN5)
(第Ⅱh調査区5層)



10 イノシシ上顎骨(RN26)
(第Ⅱh調査区5層)



11 ニホンジカ肩甲骨(RN30)
(第Ⅱh調査区5層)

卷頭図版4



10・11 塗彩土器(第Ⅱh調査区)



12・13 塗彩土器出土状況(K12Ⅱh.SW)



14 浅鉢(104)出土状況
第Ⅱh調査区



15 異形石器(19)出土状況
第Ⅰ調査区北東区5層

序

本書は遊佐町教育委員会が発掘調査を実施した、小山崎遺跡第12次調査の結果をまとめたものです。

小山崎遺跡は山形県北西部、秋田県境にほど近い遊佐町にあります。東北一の高峰鳥海山に抱かれた遊佐町は、有史、古代を問わず、遺跡の分布が濃密なことで知られています。古くは懐ノ内F遺跡によって庄内地方最古の後期旧石器時代前半期にさかのぼる人類の足跡が確認されました。古代には遊佐駅が設置される交通の要衝としての役目をにない、平安期には最北の荘園「遊佐荘」として、その存在を外に示しておりました。縄文時代においても、この豊かな自然環境を背景に、そのときどきに、南北の文化の影響を受けながら、それでいて、ただ飲み込まれることなく、独自の社会を築き上げていたことが、南北文化の融合として語られる吹浦式土器に垣間見ることが出来ます。

このたびの発掘調査では、かつてみなかったまとまりと風格のある縄文時代後期前葉の土器群が、多種類の魚骨・獣骨類・骨角器とともに姿を現しました。その質の高さと情報量の豊富さは、今後の研究に大きく寄与するものであり、その影響は山形県のみならず、広範な地域におよぶものと確信します。

すでに見つかっている水場遺構などに加え、この遺跡の集落構造の解明の鍵となる居住地の探求が、本遺跡調査の大きなテーマとして浮上しておりました。今次の調査では、焼けた大型のマダイの骨などが検出され、小山崎縄文人が、食料資源として調理した後に廃棄していたことが判明しました。復元可能な土器群と合わせ、当時の人々の日常生活の気配が、より近く感じられるようになったのではないのでしょうか。舌状の台地上に彼らの本拠地が存在する可能性が高まったといえます。

埋蔵文化財は過去を語るだけのものではありません。祖先が途切れることのない歴史の中で、そのときどき、どのように社会と向き合ってきたかを子孫の私たちに教えてくれます。小山崎遺跡の傍を流れる牛渡川には、毎年、たくさんの鮭が溯上します。この光景はおそらく縄文時代以来、かわることなく繰り返されてきた光景でしょう。このすばらしい自然環境を大切に、鮭ののぼる縄文の遺跡・小山崎の解明が進むことを望むものです。

最後に、調査を担当した調査員をはじめ、協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げますと共に、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

平成18年3月16日

遊佐町教育委員会
教育長 小田島 健男

例言

- 1 本書は遊佐町教育委員会が実施した小山崎遺跡の第12次発掘調査の報告書である。
- 2 調査は、町教育委員会が主体となり、国庫補助を受けて実施する継続事業の初年度となる。
- 3 調査は、低湿地部1ヶ所(I区)、台地部2ヶ所(II・III区)の3ヶ所(合計168m)で実施した。加えて、期間中に遺跡西方丘陵地における分布調査も6地点で実施している。
- 4 現地調査は2005(平成17)年9月5日～11月24日まで実施し、実働は43日間であった。
- 5 整理作業、報告書執筆は2005(平成17)年11月末～2006年3月に実施した。
- 6 発掘調査の体制は、主体の遊佐町教育委員会が小山崎遺跡調査委員会を組織して、実際の発掘、整理報告書作成までの実務を小山崎遺跡発掘調査団に委託している。体制は下記の通りである。

小山崎遺跡調査委員会

調査総括 小田島健男
調査主任 佐藤禎宏
調査員 大川貴弘(遊佐町教育振興課)
調査指導 山形県教育庁社会教育課文化財保護室・財団法人山形県埋蔵文化財センター
調査委員 渋谷孝雄・阿部明彦
事務局長 佐藤幸一
事務局員 鳥海盛夫・渡会和裕・高橋克幸

小山崎遺跡第12次発掘調査団

調査主任 佐藤禎宏
調査員 大川貴弘
作業員 土門 貢・小松美登子・本間一吉・常田敏郎・志田幸夫・佐藤かな子・今野一彦・阿部國士・高橋 武・三ツ橋信義・狩野 孝・千葉保雄・森谷 愛

- 7 本報告書の作成と編集は、佐藤禎宏と大川貴弘が協議し、執筆は大川貴弘が担当した。全体については佐藤禎宏が監修した。
- 8 整理作業全般で、土門 貢・小松美登子・森谷 愛が佐藤と大川を補佐している。写真は土門が撮影した。
- 9 現地調査から報告書作成にあたり、文化庁、山形県教育庁社会教育課文化財保護室、(財)山形県埋蔵文化財センター、新潟県立歴史博物館、箕輪鮭漁業生産組合、昌中六左衛門他土地所有者から、ご指導とご協力を賜った。調査委員の渋谷孝雄、阿部明彦両名には現地でご指導いただいた。岡田康博(文化庁文化財部記念物課)文化財調査官からは、調査後に、今後の調査の方向性についてご指導を賜った。
- 10 調査の記録と遺物は、遊佐町教育委員会が一括して保管している。
- 11 委託業務は次の通りである。調査地の基準杭の設定：有限会社アース測量 出土骨類の同定：パリノ・サーヴェイ株式会社

凡例

- 1 検出遺構と遺物の登録は、下記の分類記号を用いて番号をそれに付している。
SA…杭列 SK…土坑 SD…溝 SX…性格不明遺構 SP…柱穴 RP…土器・土製品 RQ…石器・石製品 RW…木製品 RN…骨類
- 2 調査区は正方位のグリッドに基づいて区割りしている。グリッドのY軸は真北を示す。調査区平面図には国土座標の数値を記載している。
- 3 確認調査では、遺物個々の出土位置を記録する他、2メートル四方の小グリッドを設定して記録する方法も併用した。
- 4 採録した地形図、調査の平面図・層序断面図の縮尺はスケールとともに付記している。土器の実測図は1/4、拓影は1/3、土製品は1/2を原則としている。例外として、第IIh区出土状況図の縮尺は紙面の都合上任意となっている。石器の実測図は打製石器1/2、磨製石器と石皿など大型の遺物は1/3の縮尺で掲載している。写真の縮尺は不統一である。
- 5 掲載した石器と土器には個別に通し番号を用いて、実測図(拓影図)と写真の同一個体は同一番号とした。同じく、挿図と図版の写真は、対応関係を示している。
- 6 層序はすべて算用数字で表記している。
- 7 石器属性表の石材については主観的な肉眼的観察によるものである。
- 8 土層断面図で用いた色調の記載は『新版標準土色帖(1997年版)』(農林水産技術会議事務局監修)による。
- 9 本文では関連機関について次のような略称を使用した。
山形県教育委員会：県教委、山形県埋蔵文化財センター：県埋文、山形県立博物館：県博、遊佐町教育委員会：町教委

I 遺跡の環境と調査

目次

巻頭図版1~4

I 遺跡の環境と調査

1 遺跡の位置 1

2 調査の経過 2

II 本次の調査

1 調査の目標 3

2 調査の内容 3

III 調査の結果

1 第I区の調査 4

2 第II区の調査 5

3 第III区の調査 6

4 分布調査 7

5 出土した魚骨・獣骨類と骨角器 7

IV 調査のまとめと課題 8

図版1~10

報告書抄録

挿図表・図版目次

巻頭図版

- 1 航空写真・基本層序
- 2 出土土器と検出状態
- 3 第IIh区検出の獣骨類と骨角器
- 4 特徴のある遺物と検出状態

挿 図

- 図1 小山崎遺跡周辺の地形と遺跡 1
- 図2 調査区の配置図 2
- 図3 第I調査区の遺構出土状況 11
- 図4 第I調査区の遺物出土状況 12
- 図5 第II・III調査区の調査状況 13
- 図6 第IIh調査区の遺物出土状況 (1) 14
- 図7 第IIh調査区の遺物出土状況 (2) 15
- 図8 第I調査区出土土器 (1) 16
- 図9 第I調査区出土土器 (2) 17
- 図10 第IIh調査区出土土器 (1) 18
- 図11 第IIh調査区出土土器 (2) 19
- 図12 第IIh調査区出土土器 (3) 20
- 図13 第IIh調査区出土土器 (4) 21
- 図14 第IIh調査区出土土器 (5) 22
- 図15 第IIh調査区出土土器 (6) 23
- 図16 第IIh調査区出土土器 (7) 24
- 図17 第IIh調査区出土土器 (8) 25

- 図18 第III調査区出土土器 26
- 図19 第II調査区と分布調査の出土遺物 27
- 図20 出土土製品 28
- 図21 出土石器 (1) 29
- 図22 出土石器 (2) 30
- 図23 出土石器 (3) 31
- 図24 出土石器 (4) 32

挿 表

- 表1 掲載石器属性表 9
- 表2 骨類同定結果 10

図 版

- 図版1 第I区の調査
- 図版2 第II区の調査
- 図版3 第III区の調査
- 図版4 第IIh区出土の土器群 (1)
- 図版5 第IIh区出土の土器群 (2)
- 図版6 第I・IIh区出土の土器
- 図版7 第IIh区出土の土器
- 図版8 第II・IIh・III区と分布調査の出土遺物
- 図版9 出土石器 (1)
- 図版10 出土石器 (2) と土製品

1 遺跡の位置

鳥海山南西麓に展開する広大な裾野には、幾筋もの河川が、西方の日本海に向け流下している。その中小の河川は庄内平野の北端、吹浦の河口に向け収束する。同時に、南方鶴岡市湯野浜から32km、幅1.5kmの規模で続く庄内砂丘の北端部が位置する。この一帯は庄内平野への出入り口として南北の文化が交差する場所である。小山崎遺跡は、吹浦川の河口から東へ直線距離で1.5km、鳥海山の裾野が平野部と接し、崖線からの湧水源が随所にみられる場所に位置する。行政地番は遊佐町吹浦字七曲、七曲堰の東他である。箕輪鮭人口孵化場の西に、標高6m前後の低平な舌状台地が南東方向に向け180m程伸びている。この台地(俗称小山崎)と周囲が遺跡の中心となり、遺跡を取り囲むように清流牛渡川が豊富な湧水を集め、毎年、数多くの鮭が溯上する。

遺跡付近には、日本考古学史上に残る縄文遺跡が見られる。古くは9世紀『日本三代実録』に記され、朝廷に聞こえた「飽海郡神宮寺西浜」での石鏃降雨事件は日本人が初めて先史遺物に接した正式な記述である。西方0.7kmにある吹浦遺跡は長谷部言人博士の試掘(1919)に始まり、県内遺跡の学術調査の黎明期を担い、後に円筒土器系土器群と大木式系土器群の接触の問題を提起し、柏倉亮吉らが提唱した前期末の『吹浦式土器』の標式遺跡である。北方4.8kmには、中国殷代の青銅刀が出土した後期の三崎山A遺跡がある。南東4.8kmには、庄内地方縄文後期土器型式編年の研究に貢献した神矢田遺跡(佐藤禎宏他、1972)が存在している。

上述のように、一帯の遺跡は吹浦式土器に証明される南北文化の融合を物語っているが、それは日本海という海の道が重要な経路となっていたであろう。渡海して伝わった三崎山出土青銅刀が示すように、時にはその経路は大陸にまで延びていたであろう。そして、その海の道からの道標として、2,236mの標高を持つ鳥海山が圧倒的な存在感を誇示していたであろう。小山崎遺跡を含め、一帯の既知、未知の縄文遺跡はその鳥海山麓台地が平野部に触手を伸ばすように張り出した台地上に位置しているのである。

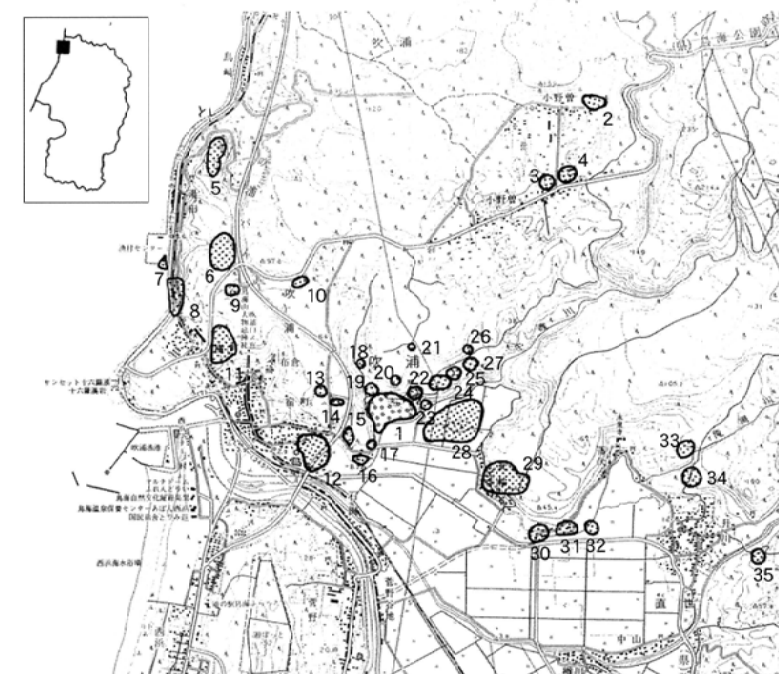


図1 小山崎遺跡周辺の地形と遺跡 (1/50,000)

周辺の縄文遺跡

番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	小山崎	19	七曲道ノ上
2	小野曾C	20	柴燈林2
3	小野曾A	21	柴燈林3
4	小野曾B	22	丸池
5	湯元田山	23	荒川
6	小屋林道西	24	柴燈林
7	釜藏	25	牛渡1
8	南光防坂	26	柴燈林4
9	小屋林道東	27	牛渡2
10	ムジナ堂	28	舟森
11	小長坂	29	箕輪
12	吹浦	30	下山
13	大黒坂	31	笹淵
14	物見峠B	32	目倉神
15	物見峠A	33	小倉向
16	小谷地	34	山居
17	物見峠C	35	川東
18	柴燈林5		

2 調査の経過

既知の小山崎遺跡に調査のメスが入ったのは県教委による表面調査を経た後の1992年の試掘調査からである。以来、2002年の第7次調査まで、県教委による継続調査が実施された。調査は主に低湿地部で行われ、台地上でも若干、調査が実施されている(図2)。結果、低湿地部には地表面下2.5m前後、海拔0m以下に至るまで層位的に動植物遺体を含む遺物包含層が堆積し、その年代幅も縄文早期末～晩期に至る極めて稀な遺跡として認識されることになる。特筆すべき遺構としては第2次調査A区の建物遺構、4次二区で全貌が判明した遺跡北西部の柱根と配石による水場遺構や、6次T区で検出された小貝塚などが上げられるが、遺跡を特徴づける一方の要素は、豊富な地下水に保存された有機質遺物の質の高さである。各調査次には、漆器、骨角器、動植物遺体が伴い、第6次調査では人骨(頭骨・下顎骨)も検出されている。漆製品や骨角器は他遺跡ではみられない個性的な資料が出土している。

遺跡の状況の把握が進むと同時に、調査は、遺物の主体を示す縄文後期の集落構成の解明という大きな目標を持つこととなる。県教委の調査成果を受けて03年から町教委では第8・9次調査、翌04年に第10・11次調査をいずれも雇用対策事業として実施している。この4次にわたる調査では、遺跡北方台地上を中心に分布調査(一部確認調査)を行い、縄文中期～平安時代にかけての新規7遺跡を確認した。また標高18～30mの柴燈林遺跡(B地区)では、大木8a式期の土器投棄場が検出されるなど、保存良好で比較的規模の大きな中期の集落の存在することが確認された。このとき、本拠地新潟より搬入されたと推察される火炎土器も検出されている。この調査では縄文時代後期の集落跡を確認するには至らなかったが、小山崎遺跡を広域的な視点から考察する成果が上がっている。



図2 調査区の配置図

II 本次の調査

1 調査の目標

第8次調査以降、町教委によって実施された小山崎遺跡周辺部における広域的な分布調査(遺跡の北部台地上を主に調査)では、遺跡から主体的に出土する縄文後期の居住の本拠地を確認するに至っていない。膨大な遺物を残し、水場や焼土遺構等を構築した人々の居住の場を探求するという課題に対して、第12次となる本次の調査では、再び小山崎遺跡本体に調査の舞台を戻すこととなった。水場遺構や遺物の出土地の至近に、その本拠地があるのが通例であり、本遺跡集落構成も例外ではないとの考察による。

本次の調査を実施するにあたり、下記3項目の目標を設定した。①縄文後期における低湿地地区の利活用形態の把握。②遺跡の主たる居住地と推定される舌状台地斜面部の地層の堆積の確認。③遺跡西方丘陵地(物見峠・小谷地)における分布調査。これら3つの目標は、過去の県教委の調査による不足のデータを補うと同時に、今後の調査の大きな指針となる情報を得るために県教委と協議の上決定された。

具体的な調査区の設定にあたっては、過去の調査経緯を踏まえたものとなっている。低湿地部では、2次調査A区で得られた柱穴列の南隣接地での関連遺構の確認が目的とされ、第I調査区(112m²)が設置された。台地部斜面には第II調査区と第III調査区の2箇所設置された。第II調査区は、台地西縁の南面する急斜面を中心に、斜面上部と下部に若干の平坦面を持つ南北軸の調査区となった。この場所は、4次調査で確認された水場遺構内で北方へ伸びる石敷き道路遺構の延長線上にあたる。また、調査区南端は斜面が湿地と接する場であり、湿地部との地層の連続性など、貴重な情報が得られる可能性がある。第III調査区は、台地東縁の緩斜面に東西に設定された。第II調査区とは対照的に緩やかな斜面の為、傾斜の違いによる斜面の地層堆積状況を比較できる可能性が期待された。

分布調査に関しては、本遺跡と吹浦遺跡の中間に位置する物見峠と呼ばれる台地先端部周囲を調査地区に選定した。

2 調査の内容

この調査では3ヶ所に確認調査区(I・II・III)が設定され、合計面積は168m²である。I区は公有地内、II・III区が民有林での調査となった。II区南端に設定された発掘区(IIh区)は、台地斜面が低湿地部に落ち込んでゆく地形変化点に該当し過去の調査でもこのような地点を調査した経緯はない。その重要性に鑑み、他の発掘区の調査終了後に、単独で実働7日間の発掘を行った。分布調査は調査期間中の10月19日の午後半日で合計6地点の調査を、遺跡西方丘陵地上で、各地点1m四方の試掘坑を設けて実施している。本調査の日数は延べ43日間である。調査期間中は終盤を除き天候に恵まれたが遺跡の性格上、低湿地部のI区は湧水が激しく、調査が難航し、実働36日間という最も時間を費やした地区である。同じくII区南端のIIh区でも実働は7日間と比較的短期間であったが湧水に苦慮することとなった。加えてこの第IIh調査区はかつて類をみない膨大かつ多種多様な遺物を包含していたため、骨類の洗出作業等に人員を割り振らなければならず、時間的な制約を受けることとなり、遺物包含層の完掘には至らなかった。出土遺物は全体で整理箱25箱であった。

Ⅲ 調査の結果

1 第Ⅰ区の調査

(1)調査区の位置(図2)

遺跡内で南東方向へ伸びる舌状台地の西側、2次で柱穴列が検出されたA区南側1m、11次Ⅰ区の東2m、4次一区の西2m、標高2.0mの地点に8×14mの南北に長い調査区を設定した。区内は2m四方で細分し、a1～g4と呼称している。本調査区は、1m幅の東西、南北方向の土層観察用ベルトの存在により、北東・北西・南東・南西の4区に区分されている。

(2)層位(図4)

調査は6層上面まで精査した。堆積した層位は盛土(攪乱層)を0層とし、暗渠掘り方を01～03層、旧水田耕作面から1層とした。2層は旧水田床土、3・4層は微量の遺物を含む粘質土であるが、3層にわずかに平安期起源の火山灰が含まれる。5層は多量の縄文後期が主体の遺物と小礫を含む黒色粘土である。6層は5層黒色粘土の除去に伴い、上面を検出したに留まったが、しまりのある灰色のシルトまじりの砂であった。

(3)出土遺構(図3)

北西区で打込み杭列(SA1)が5層で確認された。4本の杭が1.3mの間に直線で並ぶ。下端部の切り口が鋭利な金属器と使用が推察でき、縄文期以降の所産であろう。4層下部に据え置かれた暗渠本体(SD1～3)が検出された。北端東寄りに風倒木(SX1)による土層の乱れが確認できる。2次調査A区の柱穴列と同様な遺構が存在していたならば、風倒木により遺構は影響を被った可能性がある。北東区南側に土取穴(SK1)がみられ、深さは5層にまで及ぶものであった。南東区に斜走する1次調査の10トレンチが検出された。掘り込みは大部分4層下部までであるが、南部では深堀区となり、5層以下まで及んでいる。

(4)出土遺物

①土器と土製品(図8・9、20、図版6)

本調査区から出土した土器及び土製品の総量は3,687点である。有溝土錘(324)と円盤状土製品(290、292～310)の他は土器片である。円盤状土製品は図化していない資料も含めて27点確認できた。出土層位は4層までは微量で、大部分が5層の黒色粘土からの出土である。すべての資料が、一次的な位置になく接合不能な流れ込みを示す状態で検出された。

図8・9は層位別にした土器拓影図である。対応して図版6に表裏の写真を掲載している。1～3層(1～22)までは後期を中心に、前期・中期の土器が混入する。5層出土の土器も1～4層までと同様に後期主体の中に中期、晩期といった異なる時期の土器がわずかに混在するが、おおむね該当時期と形式の推移で並べている。

1・23は前期の資料で大木2b式のS字状連鎖撚糸文や胎土に繊維が含まれる土器。3・28・29・32・33の粘土紐貼付による渦巻文等は木7a～8式併行であろう。2・30・31は渦巻文と立体的な橋状突起から木8a式土器。4・5・34・35は沈線や隆起線で区画し縄文や撚糸を充填する木9・10式に比定できる。27は北陸中期初頭新保式土器の特徴である半截竹管による幅4～5mmの半隆起線による器面装飾が施される。8・13～15・38～53は後期前葉の土器群である。15は口頸部に隆線を巡らして隆線上に刻目が施され、浅い円形のくぼみ文様が施される土器。43・44は貫通する口縁部突起から垂下する沈線間が粗い磨消を受ける土器であり、宮戸Ib式平行に比定できる。他の土器は口縁部に無文帯、口唇部に沈線を持ち、垂下する沈線で懸垂文、渦巻文等が描かれる。沈線は2条以上の集合沈線となっており、関東の堀ノ内1式土器併行であろう。9～12・22・36・37・55～84は発達した装飾突起や、縄文地を横走する平行沈線で区画した土器、曲沈線で区画した内部に縄文を残しその境界に刺突文が付された土器等、多様な文様が認められる一群で、宝ヶ峰式、加曾利B1～B3式に併行する。85・86は後期後葉の所謂瘤付土器であり、金剛地式に比定できる。87～90は三叉状入組文などが見られる晩期初葉大洞B式土器の時期であろう。

②石器と石製品(表1、図21～24、図版9・10)

本調査区から検出され、図表化した代表的な石器は打製石器18点(石鏃9点、異形石器1点、石鏃未成品1点、石錐1点、石匙2点、削器1点、搔器1点、石核2点)、石製品4点(石錘2点、円盤状石製品3)、磨製石斧2点、である。資料体として良好なものを選別した為、2次加工剥片等は除外した。磨石、石皿、凹石については多数の為、より限定しての図表化を行った。出土量は少数であるが、興味深い資料として(19)の異形石器が筆頭であろう。81mmの長さに対しての7.7mmの器厚の薄さ、平面形態も両側面中央部が挟りこまれ、下端に2本の突起が作出されるのは類例をみない。(46)の搔器は平面形態が旧石器の先刃式搔器に酷似する。相違するのは石刃素材でない点であろうか。4次調査二区で酷似の資料が検出されている。(60)の石錘は、扁平に剥ぎ取った素材周囲を整形し、表面に膠着物が観察される。

2 第Ⅱ区の調査

(1)調査区の位置(図2)

第Ⅱ調査区は遺跡の舌状台地西縁、南面する標高6mからの傾斜地、低地からの比高約3.5mの急斜面を中心に、斜面上部に平坦面を持つ2×12mの調査区である。2m四方の小区に分け北から順にa～f区に細分している。後に南側平坦地へ2×3mの延長区(Ⅱh区)を設定し、調査を実施した為、斜面の上部と下部に平坦面を持つ合計30m²の調査区となった。本調査区の設置の目的は第Ⅱ章-1に叙述している。

(2)層位(図5)

本調査区の層位は本来ならば上部平坦面から斜面を下り、下部平坦面(Ⅱh区)に至るまで連続注記を行うべきものである。しかし、f小区とⅡh区の間に2mの未調査部分が存在すること、Ⅱh区の地層の堆積環境が斜面部とは異なる要素をもつことの二つの理由から、個別に層序を起こした。地層の連続性に関する考察は、後日改めて行いたい。上部平坦面から斜面部の層序は、1層の黒褐色土は斜面下部で最大40cmの厚みを持つが、薄い箇所では、10cm程度の厚みしか持たない部分がある。2層褐色粘質土は漸移層であるが、大きな礫を包含している。この1・2層が遺物包含層となるが、その厚みは北端C-Dの断面で、最大40cmの厚みを持つ。3層からは地山の風化粘土層となる。

Ⅱh区の地層の層序は、7層確認している。堆積は、1層の暗褐色土が旧水田耕作面との記録があるが、判然としない。2層からは大型の炭化物を多く含み、遺物量も極めて膨大に検出され始める。3・4層と遺物は途切れなく包含されているが、5層の黒褐色粘質土に至り、獣骨類や骨角器など有機遺物の出土が最大となる。この5層と低地部の縄文後期の遺物を含む層との連続関係が関心がもたれる。層位は7層で地山粘土層に達することが調査区北寄り確認できるが、南側は5層以下が南方に傾斜して落ち込む為、地表面下110cm、標高1.0m地点までの掘り下げに留まっている。

(3)出土遺物

①土器と土製品(図6・7、10～17、19・20、図版4～8)

本調査区での土器・土製品の出土総数は4,522点に及ぶ。Ⅱh区からの出土が4,399点上り、調査区全体の出土量の97.3%に及ぶ。土製品として円盤状土製品が19点、土錘(325)が1点確認できた。斜面上部平坦面から斜面にかけては、123点の土器片が確認できたが、斜面を崩落する過程を物語るように、腐植土層が斜面下方ほど厚みを増すことに連動し、土器片の包含数も増加している。出土土器は、図19に上部平坦面から斜面部検出の土器、他はⅡh区出土資料として分けている。

図19-258～273は口縁部が無文で地文が撚糸の後期前葉の土器、縄文地を横走する沈線で区画する土器や曲沈線で区画された内部に縄文をのこす宝ヶ峰、加曾利B1～B3式土器に併行する後期中葉の土器、後期後葉の瘤付土器がある。

Ⅱh調査区出土土器は21点が図上復元された(91～111)。深鉢、浅鉢、壺、注口土器が存在する。深鉢は胴部上半部が緩やかに膨らみ、口縁部が外反するもの(91～93、98・99)、やや

内湾するものがある。口縁部は小波状口縁をなす資料(91・94)がある。104は内外波状口縁となる浅鉢である。109は橋状把手を持つ。深鉢形土器の体部文様には3~5本の沈線で1単位の縦位直線文、渦巻文、連鎖状の沈線を持つ。沈線による口縁部と胴部を区画する傾向もみられ、口唇部文様帯と胴部文様帯の間を結ぶ隆線も見られる(93)。108の注口は沈線文施文による。

図13~17は土器の部位、器形により、並べたものである。後期前葉の資料としてまとまっているが、図13-112~127は後期以前の資料である。112・115・116・は胎土に繊維を含み、節の詰まった斜行縄文・羽状縄文が施されるなど前期前葉大木1式土器。114は木目状燃糸文で前期末の土器である。118~127は中期大木式末葉の土器である。中期以前の土器は深い層準より検出される傾向がある。

128~217までは、一括して後期前葉の深鉢形土器である。図13~16には口縁部の土器と特徴的な胴部文様を有する土器を並べた。図17には胴部が丸い球形に膨らむ特徴を持つ土器や小型の土器である。口縁部を集めた一群では、口頸部に隆線を巡らして隆線上に刻目を有する土器(130~133)。波状口縁の深鉢で、波頂部には円孔、円形沈文、胴部には弧状文、縦位直線文、8の字状の文様等を持つ。沈線によるモチーフ内は磨消される等の施文がみられる土器がある(135~159)。160~189は、地文が燃糸の胴部資料であるが、口縁部資料群と同じく、後期前葉の特徴である縦位の沈線や連鎖状の沈線、渦巻状の単位文様など、後期前葉のまとまりを持つ資料である。粗製土器を2点掲載した(154・156)。192~207は胴部が膨らむ鉢形の土器であるが、口縁が内反するもの(192~195・199・204)と、外反するもの(197・198・200・202~207)のがあり、後者は金魚鉢状の形態となるものであろう。195は口縁部平面形が、内外波状となる。208~217には小型で薄手の深鉢を並べている。

IIh区出土の土器を概観したが、全体的に、後期前葉の特色を典型的に示す好資料といえる。東北地方での宮戸1b式や綱取2式、あるいは関東の堀ノ内1式、新潟の南三十稻場式など、比較すればそのいずれの特徴も見ることが出来る。しかしそれらの土器文化の影響を蒙りながらも、地域的独自性のようなものが伺い知れる。今ようやく比較検討可能な土器資料が姿を現した段階といえる。

②石器と石製品(表1、図21~24、図版9・10)

II区出土資料を選別し、図表化した石器は、打製石器26点(石鏃8点、石鏃未成品5点、石錐5点、石匙1点、尖頭器1点、削器4点、石筥1点、石核1点)。磨製石斧3点、石錘1点、円盤状石製品8点である。凹石、石皿、磨石は、選別しての図表化である。特徴的なことは、48の石核と45の搔器、31の錐、40の削器がいずれも石器製作に関して同一母岩であることである。限定された範囲で同一母岩の資料が検出できた点は、出土地の性格を考える上で興味深い。

3 第三区の調査

(1)調査区の位置(図2)

舌状台地東縁の東方に緩やかに傾斜を持つ場所を調査区に設定した。2×13mで東西に細長い本調査区は、真東に延長すれば、5次調査O区に接続する位置にある。O区では、表土より80cm下位で旧田面が確認されている。本次の調査では、この低地帯を避ける為、台地鞍部よりに調査区を設定した。低地面との連続性の追求は直接できないが、緩斜面での遺物包含層の状態を確認することが主目的である。

(2)層位(図5)

遺物包含層は1~2層である。1層は黒褐色土、2層は褐色粘質土である。1・2層の堆積は、台地鞍部の西方ほど厚みを増す。これは、II区の急斜面の様相とは異なる状況である。西端a区西壁面では、約30cmの腐植土層の堆積があった。4層からは地山粘土層となる。

(3)出土遺物

①土器と土製品(図18・20、図版8)

本調査区での土器・土製品の出土総数は347点を数える。円盤状土製品一点(291)を除きすべ

て土器片であり、接合した資料もある。ほとんどが調査区西端からの出土となる。

218~219は胎土に繊維を含み、表面に縄文、裏面に条痕文が施される深鉢。素山上層式に併行する早期末の土器である。この土器は石器(47)とセットとなるものであろう。220はループ文が施文されており、大木1式土器に併行する。221は中期末葉の大木10式に比定される。222は口縁部無文帯を持ち数条の沈線が垂下する後期前葉堀ノ内式、223~239は縄文地を横走る平行沈線や曲沈線で区画した内側に縄文を残す施文などから、宝ヶ峰式、加曾利B1~B3式併行の土器である。240・245・246・250は三叉状入組文を持つ晩期初頭、大洞B式土器である。247~249は羊歯縄文をもつ大洞BC式土器である。本調査地では早期末~晩期前葉まで時間幅の広い遺物が確認された。

②石器と石製品(表1、図21~24、図版9・10)

出土した石器の傾向として、石皿・磨石など、生活に密着した製品の出土がある。83の石皿は裏面に2条の溝が走行し、片方の溝は断面形が幅の狭い鋭角を呈する。砥石に転用したものであろう。打製石器は、石匙1点、尖頭器1点と非常に少ない。他に磨製石斧が1点出土している。

4 分布調査

(1)調査区の位置(図19)

小山崎遺跡西方約400mで北から南へと伸びる台地があり、その先端、物見峠・小谷地と呼ばれる峠越えの道路を挟んで北側丘陵地内と南側台地平坦面(小谷地)で、6ヶ所を試掘した。

(2)出土遺物(図19、図版8・9)

TP1・2・5・6の4地点から遺物が出土した。TP1・2の地点は遺跡の新規発見となる(物見峠C遺跡)。出土した資料は、TP1で磨石片他5点、TP2では剥片1、縄文土器片3。TP5で陶磁器片3、須恵器片1、TP6で土器片23、石器2となっている。TP6出土した土器片(282~289)はまとまったものであり、接合できるものが多かった。繊維を多量に含む前期の土器である。伴出した石器は横型の石匙(34)と無茎鏃の破損品(18)である。

(3)出土遺構(図19)

TP6の2層下部から直径20cm程のピットが検出され、ピットの底25cm(地表面下65cm)の場所からも土器片が検出された。前期の遺跡が広がっている推察される。

5 出土した魚骨・獣骨類と骨角器(巻頭図版3、表2、図6、図版2)

本次の調査では台地斜面部から低地部への移行部(IIh区)で、縄文後期前葉の遺物包含層から骨角器を伴う骨類が検出された。分析対象としたのは46資料、163点の骨片と、土壌サンプル1資料である。同定はバリノ・サーヴェイ(株)に依頼し、金井慎司氏よりその結果が得られている。(表2)。今回の調査では、カスザメ類、サケ・マス類、マダイ、ヘビ類、アビ類、アホウドリ類、タヌキが新たな種類として認められている。報告によればタイ類は貝塚などにみられる大型の個体と判断でき、魚類には焼骨が見られることから、食料資源としてのこれら魚類の利用を直接的に示す証拠とされた。ツキノワグマの臼歯と末節骨の存在は、遺跡からの検出例としては重要とされた。

骨角器は2点確認された。銚先形の骨角器は全長38.63mmを測る。基部の幅は広い部分で径3.81×3.30mmで削っている。へら状の骨角器(RN23)は全長111.7mm、最大幅24.9mmを測り、丸く加工された先端部には使用痕光沢が観察できる。

獣骨類が含まれるのは、第5層が中心となっている。調査区南側での5層の落ち込みが時間的制約の為に完掘できなかったが、出土レベルとしては、標高1.64m~1.28mの範囲で確認している。

IV 調査のまとめと課題

1 第I調査区における低湿地部の様相

遺物のほとんどは第5層の黒色粘土から検出された。水辺の生活を示唆する錘や、類例のない異形石器が特筆される。遺物の主体的な時期は縄文時代後期であり、流れ込みを示す出土状態も、過去の調査での同層位の様相と矛盾しない。明確な縄文後期の遺構は確認できず、本調査区では、低地部での居住域となる根拠を見出すことはできなかった。低湿地部での場所による自然環境や活用形態の相違を把握してゆく必要がある。

2 後期前葉の良好な土器群の出土と、台地上部における集落跡の可能性

集落根拠地として有力な舌状台地の東西両縁斜面部での調査であった。急傾斜のII区では遺物が崩落、もしくは台地下のIIh区への投げ込みの様相を呈していたが、緩斜面のIII区では、遺物が崩落せず、調査区西端の台地鞍部付近に集中して検出された。III区西端付近には居住域が存在する可能性が高いといえる。IIh区は台地直下に位置するが、台地上から投げ込まれた形で遺物が大量に出土することが判明した。今後の土器型式研究に大きく寄与するであろう後期前葉の大型の土器に伴って、加熱調理されたことを示す魚骨・獣骨の焼骨が検出された。これは、生活廃棄物の捨て場としての様相であろう。この遺物包含層と低湿地部の包含層との関連は今後の検討課題であるが、遺物を投棄しているのは、上部の台地上からであり、居住の根拠地が台地上のどこかに存在する可能性を強く示唆している。これにより、台地全域にわたる詳細な調査により、遺構を探索する必要性が生じた。

3 遺跡西方丘陵地における分布調査の状況

分布調査では6地点で試掘を実施したが、縄文時代の新規遺跡となる物見峠C遺跡が発見された。また、既知の小谷地遺跡では、台地平坦面の北東側林内で、縄文時代の前期の遺物包含層の存在が把握できた。小山崎周辺での分布調査は、北部と西部で実施したことになるが、多くの詳細不明の遺跡が存在する東方の台地上でも分布調査を行い、その性格を明らかにしてゆく必要がある。

引用・参考文献(主に参考としたものに限定しての掲載)

阿部明彦 1999 『小山崎遺跡—第2次発掘調査概報—』山形県立博物館
 阿部明彦 2000 『小山崎遺跡—第3次発掘調査概報—』山形県立博物館
 安部 実 2002 『小山崎遺跡第6次発掘調査概要報告書』山形県立博物館
 後藤勝彦 2005 「南境貝塚調査の層位的成果II—8トレンチの場合—」『宮城史学』第24号
 佐藤禎宏 2005 『小山崎遺跡第8~11次調査概要報告書』遊佐町埋蔵文化財調査報告書第4集
 佐藤禎宏・佐藤鎮雄 1972 『神矢田遺跡—第3次・4次・5次発掘調査報告と考察—』遊佐町教育委員会
 渋谷孝雄 1988 『吹浦遺跡第3・4次緊急発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第120集
 渋谷孝雄 1997 「II部 小山崎遺跡発掘調査報告書(1)—遺構、土器、自然科学分析編—」
 『分布調査報告書(24)pp.121~233 山形県埋蔵文化財調査報告書第198集
 渋谷孝雄・竹田純子 2001 『小山崎遺跡第4次発掘調査報告書』
 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第91集
 鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣出版株式会社
 田中耕作 2002 「新潟県における縄文時代後期前葉の土器群」『第15回縄文セミナー 後期前半の再検討』
 戸沢充則 1994 『縄文時代研究事典』東京堂出版

表1 掲載石器属性表

番号	機種	調査区	出土区	層位	計測値 [mm,g(現在値)]				石材	備考	番号	機種	調査区	出土区	層位	計測値 [mm,g(現在値)]				石材	備考
					器長	器幅	器厚	重量								器長	器幅	器厚	重量		
1	石鏃	I	廃土	5	21.4	14.8	2.5	0.5	珪質頁岩	アスファルト(無茎)	52	磨製石斧	I	e3	5	(67.1)	(41.0)	22.1	(91.2)		定角式
2	石鏃	I	廃土	5	21.1	12.5	6.8	1.6	半透明頁岩	有茎	53	磨製石斧	III	d	2	100.3	(43.5)	(23.9)	(153.5)		定角式 刃部破損
3	石鏃	I	d1	1	24.5	14.9	4.0	1.0	半透明頁岩	有茎	54	磨製石斧	II	a	1	(96.0)	(46.8)	(29.5)	(197.2)		有定角式
4	石鏃	I	c2	1	24.8	11.6	3.7	0.8	鉄石英	アスファルト(有茎)	55	磨製石斧	II	h	3	(88.2)	(56.3)	(35.6)	(236.0)		定角式 被熱痕有り
5	石鏃	I	南西区	5	(29.9)	18.4	5.0	(2.3)	半透明頁岩	有茎	56	磨製石斧	II	h	3	(100.3)	(63.1)	(33.2)	(279.9)		定角式 被熱痕有り
6	石鏃	I	d2	5	18.7	14.8	5.1	1.2	半透明頁岩	無茎	57	小型磨製石斧	I	c1	2	(25.1)	(14.5)	(5.8)	(2.5)		ノミ
7	石鏃	I	c3	5	19.3	10.8	5.7	1.1	玉髄	有茎	58	石鏃	I	b1	5	82.3	61.5	18.0	124.6	凝灰岩	礫石鏃
8	石鏃	I	a2	1	(19.6)	10.5	3.5	(0.8)	珪質頁岩		59	石鏃	II	h	3	43.1	30.7	13.2	26.4	安山岩	礫石鏃
9	石鏃	II	h	3	20.2	10.8	4.2	0.6	玉髄	有茎	60	石鏃	I	c1	2	91.5	66.6	14.5	102.4	凝灰岩	剥片素材 膠着物
10	石鏃	II	h	3	17.1	14.0	2.8	0.4	珪質頁岩	アスファルト(無茎)	61	石皿	I	b3	5	(115.8)	(97.4)	(71.2)	(1250.0)	珪質頁岩	両面研磨痕
11	石鏃	II	h	3	17.4	12.4	3.4	0.4	半透明頁岩	無茎	62	円盤状石製品	II	h	3	43.4	41.7	15.4	42.2	安山岩	周縁部破損
12	石鏃	II	h	3	(20.2)	(14.6)	3.3	(0.5)	半透明頁岩	無茎	63	円盤状石製品	II	h	3	48.7	50.4	7.9	31.5	安山岩	周縁部破損
13	石鏃	II	h	3	14.0	11.9	3.6	0.4	珪質頁岩	有茎	64	円盤状石製品	II	h	3	56.6	49.4	12.9	49.8	安山岩	周縁部破損
14	石鏃	II	h	3	13.8	9.3	3.3	0.4	玉髄	有茎	65	円盤状石製品	II	h	3	53.8	49.5	11.0	40.8	安山岩	周縁部破損
15	石鏃	II	a2	1	(16.8)	14.8	3.5	(0.9)	珪質頁岩	アスファルト(有茎)	66	円盤状石製品	I	c2	5	56.7	56.3	(16.5)	97.4	安山岩	周縁部破損
16	石鏃	II	h	3	28.6	12.7	4.4	1.3	玉髄	アスファルト(有茎)	67	円盤状石製品	II	h	3	57.5	53.6	16.4	76.4	安山岩	周縁部破損
17	石鏃	I	d2	1	22.1	13.1	4.4	0.7	凝灰岩	有茎	68	円盤状石製品	I	b4	5	55.4	(36.6)	(12.3)	(35.6)	安山岩	周縁部破損
18	石鏃	TP	6	2	(21.2)	16.1	5.0	(1.6)	珪質頁岩	無茎	69	円盤状磨石	II	h	3	49.9	48.4	14.9	57.2	安山岩	周縁部破損
19	異形石器	I	b4	5	81.0	57.0	7.7	31.5	珪質頁岩	鋸先形	70	円盤状石製品	II	h	3	105.1	59.9	23.1	125.1	安山岩	未成品
20	加工剥片	I	c1	5	34.9	26.2	8.1	6.2	鉄石英	石鏃未成品	71	円盤状石製品	II	c	1	94.7	54.0	22.0	182.6	安山岩	未成品
21	加工剥片	II	h	3	29.1	17.1	4.2	1.6	瑪瑙	石鏃未成品	72	円盤状石製品	I	a1	5	85.4	39.8	17.3	95.2	安山岩	未成品
22	加工剥片	II	f	1	24.0	17.0	6.6	2.4	石英	石鏃未成品	73	凹石	II	h	3	135.0	97.6	59.8	941.3	安山岩	
23	加工剥片	II	h	3	27.8	15.8	5.0	2.0	玉髄	石鏃未成品	74	凹石	II	h	3	95.7	66.9	46.6	246.3	安山岩	
24	加工剥片	II	h	3	31.4	21.8	6.1	3.8	珪質頁岩	石鏃未成品	75	凹石	II	h	3	114.4	65.2	65.9	563.1	安山岩	
25	加工剥片	II	h	3	28.5	19.3	9.5	5.2	半透明頁岩	石鏃未成品	76	凹石	II	d4	2	101.0	82.2	75.9	88.1	安山岩	被熱痕
26	石鏃	I	d1	2	(57.0)	45.7	10.2	(20.5)	珪質頁岩	つまみ有り	77	磨石	III	d	1	120.1	90.3	70.6	1049.2	安山岩	
27	石鏃	II	h	3	48.6	16.7	6.4	2.3	半透明頁岩	つまみ有り	78	磨石	II	h	3	101.8	74.7	28.9	372.9	安山岩	
28	石鏃	II	h	3	(34.6)	26.3	9.8	(3.6)	珪質頁岩	つまみ有り	79	磨石	I	b4	5	92.1	66.7	33.3	314.0	安山岩	
29	石鏃	II	h	3	32.5	19.6	6.1	3.5	珪質頁岩	つまみ有り	80	磨石	II	h	3	92.1	76.2	42.5	468.3	安山岩	
30	石鏃	II	h	3	(29.2)	28.7	12.5	(6.1)	半透明頁岩	つまみ有り	81	敲石	I	f4	5	60.4	34.7	27.9	88.1	チャート	両端作業面
31	石鏃	II	h	3	41.6	36.3	16.7	25.1	半透明頁岩	40-45-48 と同一母岩	82	石皿	II	h	3	(80.2)	(119.8)	(28.6)	(565.1)	安山岩	両面磨痕
32	石匙	I	d1	1	45.8	(41.4)	10.8	(17.6)	珪質頁岩	模型	83	石皿	III	d	1	(170.5)	229.0	(74.2)	(4150.0)	安山岩	
33	石匙	I	g2	5	43.6	75.0	9.4	19.8	珪質頁岩	模型 片面加工	84	石皿	III	c	1	(144.3)	(109.3)	37.9	(660.5)	砂岩	礫石兼用
34	石匙	TP	6	2	59.8	75.0	11.2	30.6	珪質頁岩	模型	85	凹石	I	f2	5	55.0	51.6	42.3	133.4	安山岩	
35	石匙	II	h	3	38.4	34.1	3.8	5.2	珪質頁岩	模型	86	敲石	I	b4	5	49.4	51.7	47	138.1	安山岩	
36	石匙	III	a	2	57.8	33.1	5.7	8.9	珪質頁岩	模型											
37	尖頭器	II	h	3	(25.5)	28.0	10.1	(4.9)	黒曜石	整形中折損											
38	尖頭器	III	a	2	(49.0)	40.0	12.6	(22.9)	珪質頁岩	整形中折損											
39	削器	II	h	3	88.0	28.6	13.3	34.5	珪質頁岩	縦長 剥片素材											
40	削器	II	h	3	(48.3)	36.7	11.9	(21.4)	半透明頁岩	31-45-48 と同一母岩											
41	削器	II	h	3	56.0	41.9	9.9	26.5	珪質頁岩												
42	削器	II	h	3	(41.4)	38.0	14.5	(21.1)	珪質頁岩	被熱痕											
43	削器	I	f3	5	54.1	31.3	9.8	14.2	半透明頁岩												
44	削器	II	f1	1	87.6	47.2	11.2	46.9	珪質頁岩	鋸歯縁											
45	掻器	II	h	3	44.0	44.8	14.9	29.9	半透明頁岩	31-40-48 と同一母岩											
46	掻器	I	a4	3	40.7	32.0	5.7	8.7	半透明頁岩	平面形特異											
47	石篋	II	f	2	55.4	40.9	13.5	31.1	珪質頁岩												
48	石核	II	h	3	66.3	62.6	38.6	139.4	半透明頁岩	31-40-45 と同一母岩											
49	石核	I	c2	5	73.1	27.8	27.0	62.8	半透明頁岩	断面三角形											
50	石核	II	h	3	95.0	39.5	43.4	127.8	珪質頁岩	断面三角形											
51	石核	I	d4	5	68.6	42.8	22.5	60.2	珪質頁岩												

表2 骨類同定結果

表2-A 骨類同定結果(1)

地点	層位	試料	日付	種類	部位	左右	部分	数量	備考
12 II h	5層	RN1	051121	イノシシ/ニホンジカ	肋骨		破片	1+	内2点焼骨
12 II h	5層	RN4	051121	獣類	四肢骨		破片	3	
12 II h	5層	RN5	051121	イノシシ	距骨	右	ほぼ完存	1	
12 II h	5層	RN6	051122	ニホンジカ	尺骨	右	近位端部	1	
12 II h	5層	RN7	051122	イノシシ/ニホンジカ	肋骨		破片	1	
12 II h	5層	RN8	051122	ニホンジカ	腰椎		破損	1	
12 II h	5層	RN9	051122	アホドリ類	上腕骨	右	同端欠	1	
12 II h	5層	RN10	051122	ツキノワグマ	上腕骨	右	骨体	1	
12 II h	5層	RN11	051122	イノシシ	上顎歯牙	右	M1	1	
12 II h	5層	RN12	051122	ニホンジカ	末節骨		ほぼ完存	1	
12 II h	5層	RN13	051122	ニホンジカ	脛骨	右	近位端	1	未化石骨端
12 II h	5層	RN14	051122	イノシシ/ニホンジカ	四肢骨		破片	4	
12 II h	5層	RN15	051122	イノシシ	脛骨	右	近位端欠	1	
12 II h	5層	RN16	051122	ニホンジカ	尺骨	右	近位端	1	
12 II h	5層	RN17	051122	ニホンジカ	上顎歯牙	右	M3	1	
12 II h	5層	RN18	051122	獣類	四肢骨		破片	1	
12 II h	5層	RN19	051122	獣類	四肢骨		破片	4	
12 II h	5層	RN20	051122	獣類	四肢骨		破片	2	
12 II h	5層	RN21	051122	獣類	四肢骨		破片	4	
12 II h	5層	RN22	051122	マダイ	方骨	左	破片	1	焼骨
12 II h	5層	RN23	051122	イノシシ/ニホンジカ	四肢骨		破片	4	
12 II h	5層	RN24	051122	不明	不明		破片	1	焼骨
12 II h	5層	RN25	051122	ニホンジカ	上腕骨	左	破片	1	
12 II h	5層	RN26	051122	イノシシ	脛骨	左	破片	1	
12 II h	5層	RN27	051122	イノシシ/ニホンジカ	不明		破片	1	
12 II h	5層	RN28	051122	ニホンジカ	四肢骨		破片	3	
12 II h	5層	RN29	051122	イノシシ	鼻骨	左	破片	1	
12 II h	5層	RN30	051122	ニホンジカ	頸椎		前関節突起	1	
12 II h	5層	RN31	051122	ニホンジカ	大腿骨		破片	1	
12 II h	5層	RN32	051122	ニホンジカ	末節骨		破片	1	
12 II h	5層	RN33	051122	イノシシ	上顎歯牙	左	破片	1	P3-M2補立
12 II h	5層	RN34	051122	ニホンジカ	上顎歯牙	右	M2	1	(M2破損)
12 II h	5層	RN35	051122	ニホンジカ	下顎歯牙	右	P3	1	
12 II h	5層	RN36	051122	ニホンジカ	下顎歯牙	右	P4	1	
12 II h	5層	RN37	051122	ニホンジカ	下顎歯牙	右	M1	1	
12 II h	5層	RN38	051122	イノシシ/ニホンジカ	四肢骨		破片	1	
12 II h	5層	RN39	051122	ニホンジカ	頸椎		ほぼ完存	1	
12 II h	5層	RN40	051122	ニホンジカ	四肢骨		破片	1	
12 II h	5層	RN41	051122	ニホンジカ	肩甲骨	右	破損	1	
12 II h	5層	RN42	051122	ニホンジカ	肩甲骨	左	破損	1	
12 II h	5層	RN43	051122	ニホンジカ	上腕骨	右	近位端	1	大結節部
12 II h	5層	RN44	051122	ニホンジカ	大腿骨	左	遠位端	1	
12 II h	5層	RN45	051122	イノシシ/ニホンジカ	肋骨		破片	1	
12 II h	5層	RN46	051122	イノシシ/ニホンジカ	四肢骨		破片	2	
12 II h	5層	RN47	051122	イノシシ	切歯骨	左	破片	1	11-2補立
12 II h	5層	RN48	051122	ニホンジカ	上腕骨	右	近位端	1	
12 II h	5層	RN49	051122	イノシシ/ニホンジカ	四肢骨		破片	1	
12 II h	5層	RN50	051122	タイ類	尾椎		椎体	1	
12 II h	5層	RN51	051122	イノシシ	上腕骨	右	遠位端	1	
12 II h	5層	RN52	051122	ニホンジカ	頸椎		ほぼ完存	1	
12 II h	5層	RN53	051122	ニホンジカ	上腕骨	右	破片	1	M1-2補立
12 II h	5層	RN54	051122	イノシシ/ニホンジカ	肋骨		破片	1	
12 II h	5層	RN55	051122	イノシシ/ニホンジカ	四肢骨		破片	9	
12 II h	5層	RN56	051122	土器				1	
12 II h	5層	RN57	051122	イノシシ	上顎歯牙	右	破片	1	dm3補立
12 II h	5層	RN58	051122	ニホンジカ	上腕骨	右	遠位端	2	
12 II h	5層	RN59	051122	ニホンジカ	機骨	右	近位端	1	
12 II h	5層	RN60	051122	ニホンジカ	大腿骨	右	骨頭	1	焼骨
12 II h	5層	RN61	051122	ニホンジカ	基節骨	右	ほぼ完存	1	
12 II h	5層	RN62	051122	ニホンジカ	四肢骨		破片	6	
12 II h	5層	RN63	051122	イノシシ/ニホンジカ	四肢骨		破片	7	
12 II h	5層	RN64	051122	不明	不明		破片	1	焼骨
12 II h	5層	RN65	051122	イノシシ	上顎歯牙	右	C	1	雄個体
12 II h	5層	RN66	051122	ニホンジカ	上腕骨	右	筋突起片	1	
12 II h	5層	RN67	051122	イノシシ/ニホンジカ	肋骨		近位端	1	
12 II h	5層	RN68	051122	イノシシ/ニホンジカ	四肢骨		破片	11	
12 II h	5層	RN69	051122	イノシシ	上腕骨	左	破片	1	dm3-4 M1補立
12 II h	5層	RN70	051122	イノシシ/ニホンジカ	肩甲骨	右	破損	1	
12 II h	5層	RN71	051122	イノシシ/ニホンジカ	機骨	右	近位端	1	
12 II h	5層	RN72	051122	イノシシ/ニホンジカ	不明		破片	1	

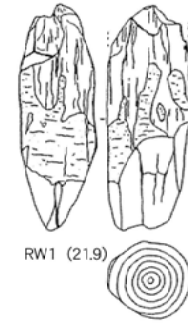
表2-B 骨類同定結果(2)

地点	層位	試料	日付	種類	部位	左右	部分	数量	備考
12 II h	5層	水洗	051123	タヌキ	下顎歯牙	左	M1	1	
12 II h	5層			イノシシ	上顎歯牙	右	破片	1	dm3-4・M1補立
12 II h	5層				上顎歯牙	左	M1	1	
12 II h	5層					右	M2	1	
12 II h	5層					右	dm3	1	
12 II h	5層					右	M1	1	
12 II h	5層			ニホンジカ	上顎歯牙	左	P2	1	
12 II h	5層					右	P3	1	
12 II h	5層					右	M2	1	
12 II h	5層				下顎歯牙		M2/3	1	
12 II h	5層	魚骨		カスザメ類	椎骨		椎体	2	
12 II h	5層			サメ類	椎骨		椎体	2	
12 II h	5層			マダイ	上顎骨	左	破片	1	焼骨
12 II h	5層			タイ類	方骨	左	破片	1	焼骨
12 II h	5層			魚類	不明		破片	1	
12 II h	5層			ヘビ類	椎骨		ほぼ完存	2	
12 II h	5層			ネズミ類	腰椎		椎体	1	
12 II h	5層	鱈		タイ類	鱈		破片	5+	
12 II h	5層	骨角器RN3	051121	イノシシ/ニホンジカ	四肢骨		破片	1	骨角器?
12 II h	5層	骨角器RN10	051122	イノシシ/ニホンジカ	四肢骨		破片	1	骨角器?
12 II h	5層	骨角器RN12	051122	イノシシ/ニホンジカ	四肢骨		破片	1	骨角器?
12 II h	5層	骨角器RN23	051123	イノシシ/ニホンジカ	四肢骨		完存	1	骨角器(5-10)
12 II h	5層	骨角器 南西	051122	イノシシ/ニホンジカ	肋骨		破片	1	骨角器?
12 II h	5層	骨角器 水洗	051122	イノシシ/ニホンジカ	不明		破片	1	加工痕跡?
12 II h	5層	骨角器 一括	051123	イノシシ	下顎歯牙	右	I2	1	骨角器?
12 II h	5層	土壌200cc 洗出		サケ・マス類	歯		破片	1	
12 II h	5層			魚類	歯		破片	33	
12 II h	5層			魚類	顎骨		破片	1	
12 II h	5層			魚類	鰓条骨		破片	1	
12 II h	5層			魚類	鰓棘等		破片	13	
12 II h	5層			魚類	不明		破片	6	焼骨
12 II h	5層			魚類	不明		破片	12	
12 II h	5層			イノシシ/ニホンジカ	不明		破片	1	焼骨
12 II h	5層			小型獣	肋骨		破片	1	

凡例) : 乳切歯 dm: 乳臼歯 C: 犬歯 P: 前臼歯 M: 後臼歯

表2-C 検出分類群一覧

- 脊椎動物門 Phylum Vertebrata
 - 軟骨魚綱 Class Chondrichthyes
 - 板鰓亜綱 Subclass Elasmobranchii
 - カスザメ目 Order Squatiniformes
 - カスザメ科 Family Squatinidae
 - カスザメ類 Squatina sp.
 - 硬骨魚綱 Class Osteichthys
 - 条鰭亜綱 Subclass Actinopterygii
 - サケ目 Order Salmoniformes
 - サケ科 Family Salmonidae
 - サケ・マス類 Oncorhynchus sp.
 - スズキ目 Order Perciformes
 - スズキ亜目 Suborder Percoidei
 - タイ科 Family Sparidae
 - マダイ亜科 Subfamily Pagrinae
 - マダイ Pagrus major
 - 爬虫綱 Class Reptilia
 - 有鱗目 Order Squamata
 - ヘビ亜目 Suborder Serpentes
 - ヘビ類 Fam. et. gen. indet.
 - 鳥綱 Class Aves
 - コウノトリ目 Order Ciconiiformes
 - アビ科 Family Gaviidae
 - アビ類 Gavia sp.
 - ミスナギドリ科 Family Procellariidae
 - アホドリ亜科 Diomedinae
 - アホドリ類 Diomedea sp.
 - 哺乳綱 Class Mammalia
 - ネズミ目(齧歯目) Order Rodentia
 - ネズミ科 Family Muridae
 - ネズミ亜科 Subfamily Murinae
 - ネズミ類 Gen. et. sp. indet.
 - ネコ目(食肉目) Order Carnivora
 - ネコ亜目 Suborder Fissipedia
 - クマ科 Family Ursidae
 - ツキノワグマ Ursus thibetanus
 - イヌ科 Family Canidae
 - タヌキ Nyctereutes procyonoides
 - ウシ目(偶蹄目) Order Artiodactyla
 - イノシシ科 Family Suidae
 - イノシシ Sus scrofa
 - シカ科 Family Cervidae
 - ニホンジカ Cervus nippon



RW1 (21.9)



RW2 (8.0)



RW3 (19.1)



RW4 (16.8)

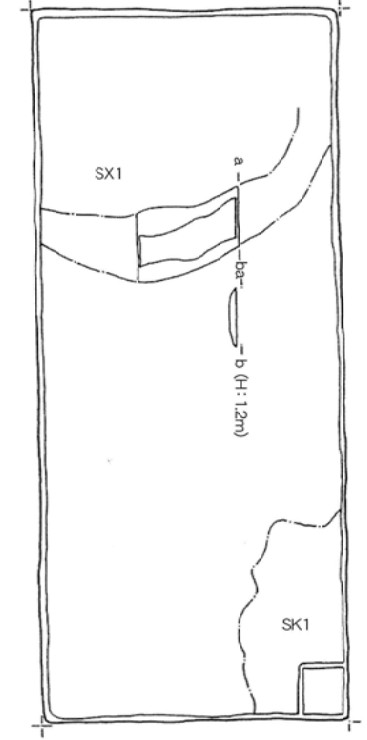
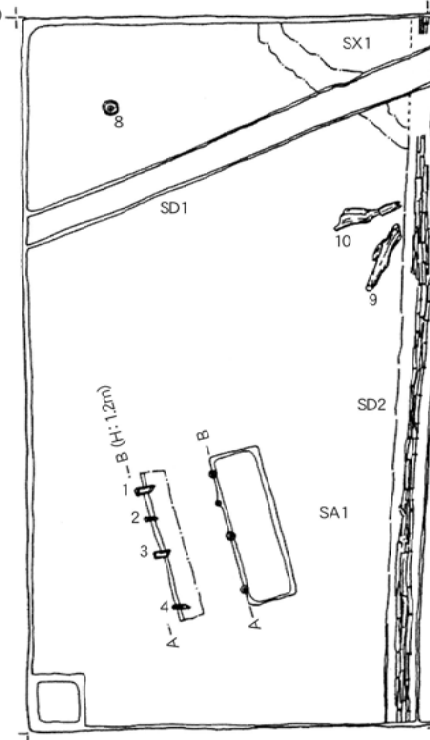


RW5 (22.6)

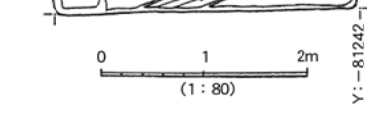


RW6 (16.8)

X: -102960



X: -102974



打ち込み杭実測図 ()内の数値は残存長[cm]

図3 第I調査区の遺構出土状況



- I区土層注記**
- 0.黒褐色シルト (盛土、にぶい黄褐色砂、赤褐色シルトのブロック含む。シマリ強い。10YR2/3)
 - 01.暗褐色粘土質シルト (酸化鉄多量含む。明黄褐色シルトのブロック、黒褐色粘土質シルトを斑状に含む。10YR3/3)
 - 02.黒褐色粘土質シルト (酸化鉄多量含む。小礫含む。明黄褐色シルトのブロック含む。シマリ強い。10YR3/2)
 - 03.黒褐色粘土質シルト (暗渠地方。酸化鉄多量。シマリ強い。10YR3/2)
 - 1.暗褐色粘土質シルト (旧水田耕作面。酸化鉄を微量含む。10YR3/3)
 - 2.黒褐色粘土質シルト (旧水田床土。酸化鉄多量を含む。明黄褐色シルトのブロックを含む。10YR3/2)
 - 3.にぶい黄褐色粘土質シルト (酸化鉄含む。淡赤褐色のシルト(火山灰)をわずかに含む。10YR4/3)
 - 4.灰黄褐色粘土質シルト (酸化鉄微量を含む。シマリ弱い遺物は微量。10YR4/2)
 - 5.黒色粘土 (縄文後期を主体とする多量の遺物と小礫を含む。シマリ弱い。2.5Y2/1)

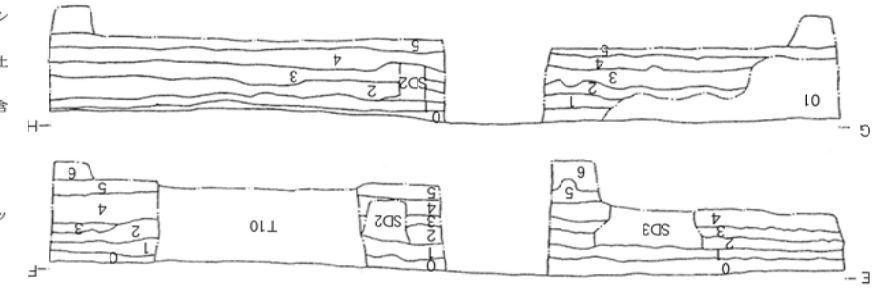
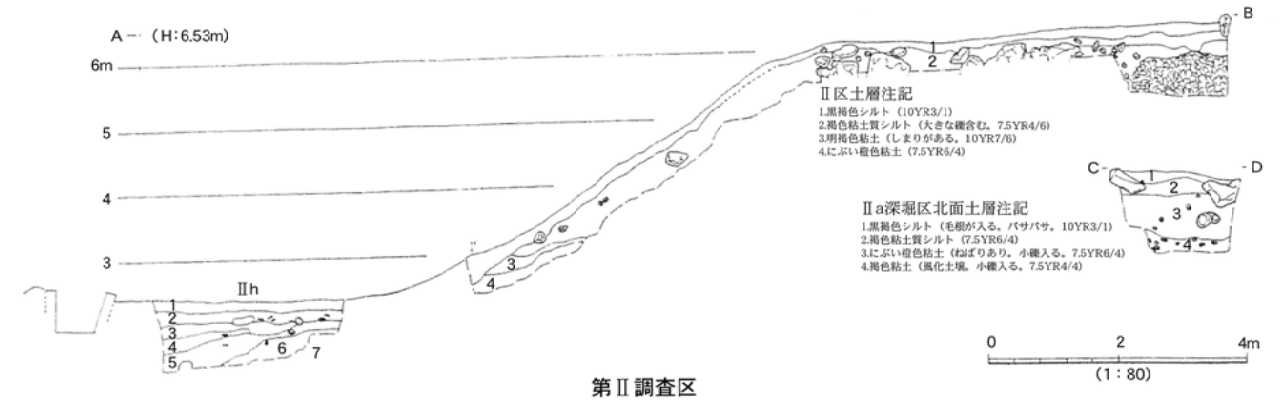
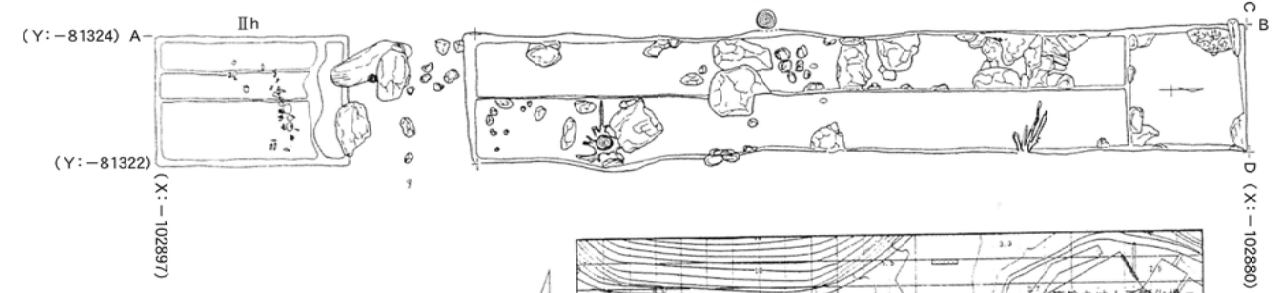


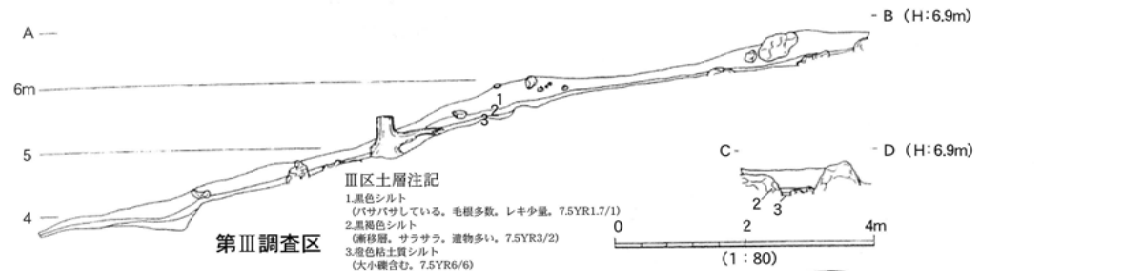
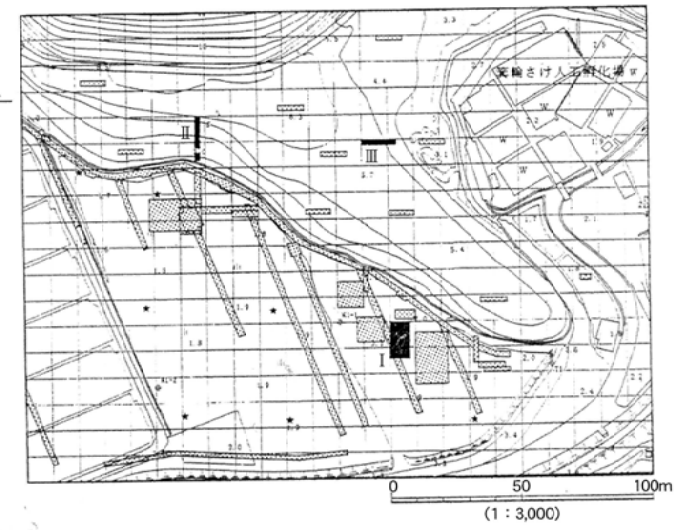
図4 第I調査区の遺物出土状況



- II区土層注記**
- 1.黒褐色シルト (10YR3/1)
 - 2.褐色粘土質シルト (大きな礫含む。7.5YR4/6)
 - 3.明褐色粘土 (しまりがある。10YR7/6)
 - 4.にぶい褐色粘土 (7.5YR5/4)
- IIa深掘区北面土層注記**
- 1.黒褐色シルト (毛根が入る。バサバサ。10YR3/1)
 - 2.褐色粘土質シルト (7.5YR6/4)
 - 3.にぶい褐色粘土 (毛根あり。小礫入る。7.5YR6/4)
 - 4.褐色粘土 (風化土塊。小礫入る。7.5YR4/4)



- IIh区土層注記**
- 1.暗褐色シルト (旧水田耕作面。10YR3/3)
 - 2.黒褐色粘土質シルト (褐色粘土塊含む。大型炭化物と炭化材含む。未分解炭塊含む。土器片多量を含む。シマリ強い。10YR3/2)
 - 3.暗褐色粘土質シルト (大型の炭化物。獣骨、魚骨、焼骨、骨角器。土器片多量を含む。未分解炭塊含む。10YR4/1)
 - 4.灰黄褐色粘土質シルト (色の。細粒。炭化物微量。10YR4/2)
 - 5.黒色粘土質シルト (大粒の炭化物。獣骨、魚骨、骨角器。種子。土器片多量を含む。2.5Y2/1)
 - 6.黒褐色粘土 (シマリ強い。遺物なし。2.5Y2/2)
 - 7.灰褐色粘土 (大礫含む。地II。7.5YR4/2)



- III区土層注記**
- 1.黒色シルト (バサバサしている。毛根多数。レキ少量。7.5YR1.7/1)
 - 2.黒褐色シルト (腐植層。サササ。遺物多い。7.5YR3/2)
 - 3.褐色粘土質シルト (大礫含む。7.5YR6/6)

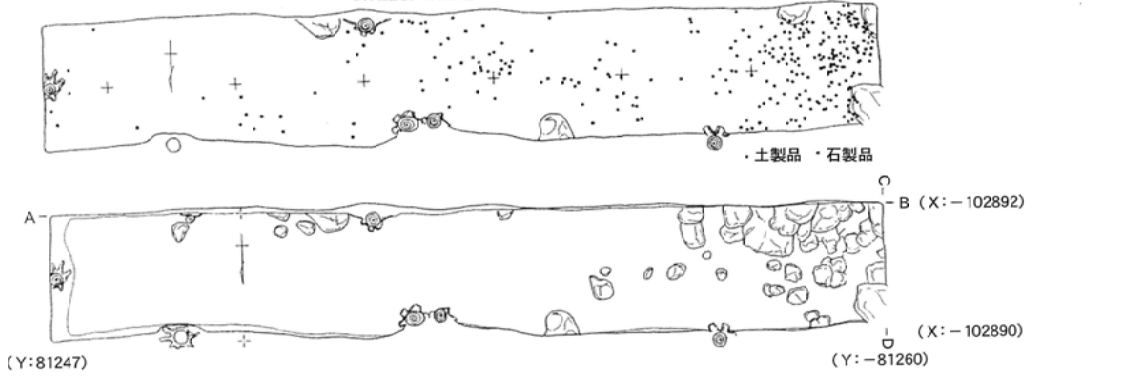


図5 第II・III調査区の調査状況

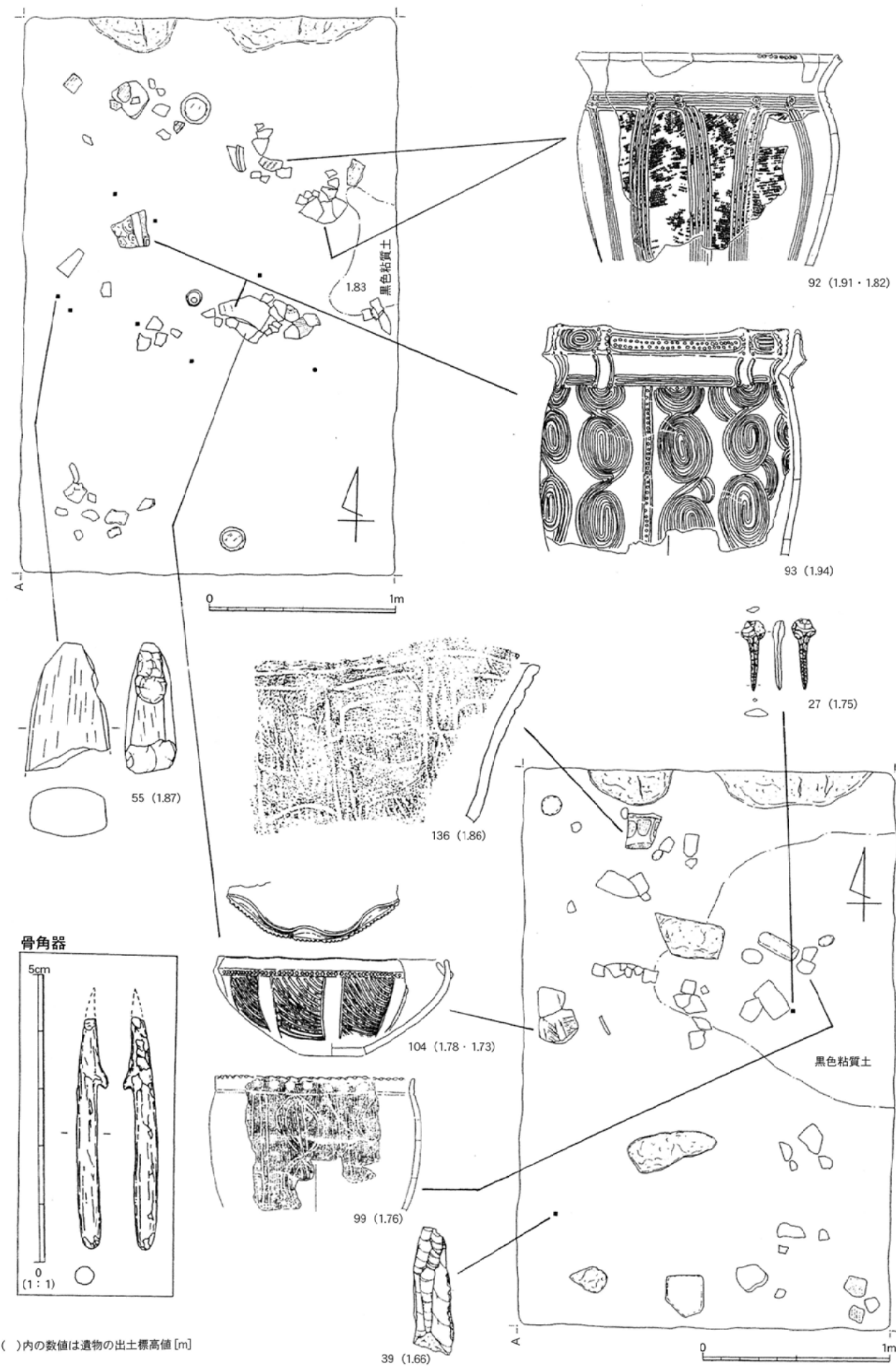


図6 第IIh調査区の遺物出土状況 (1)

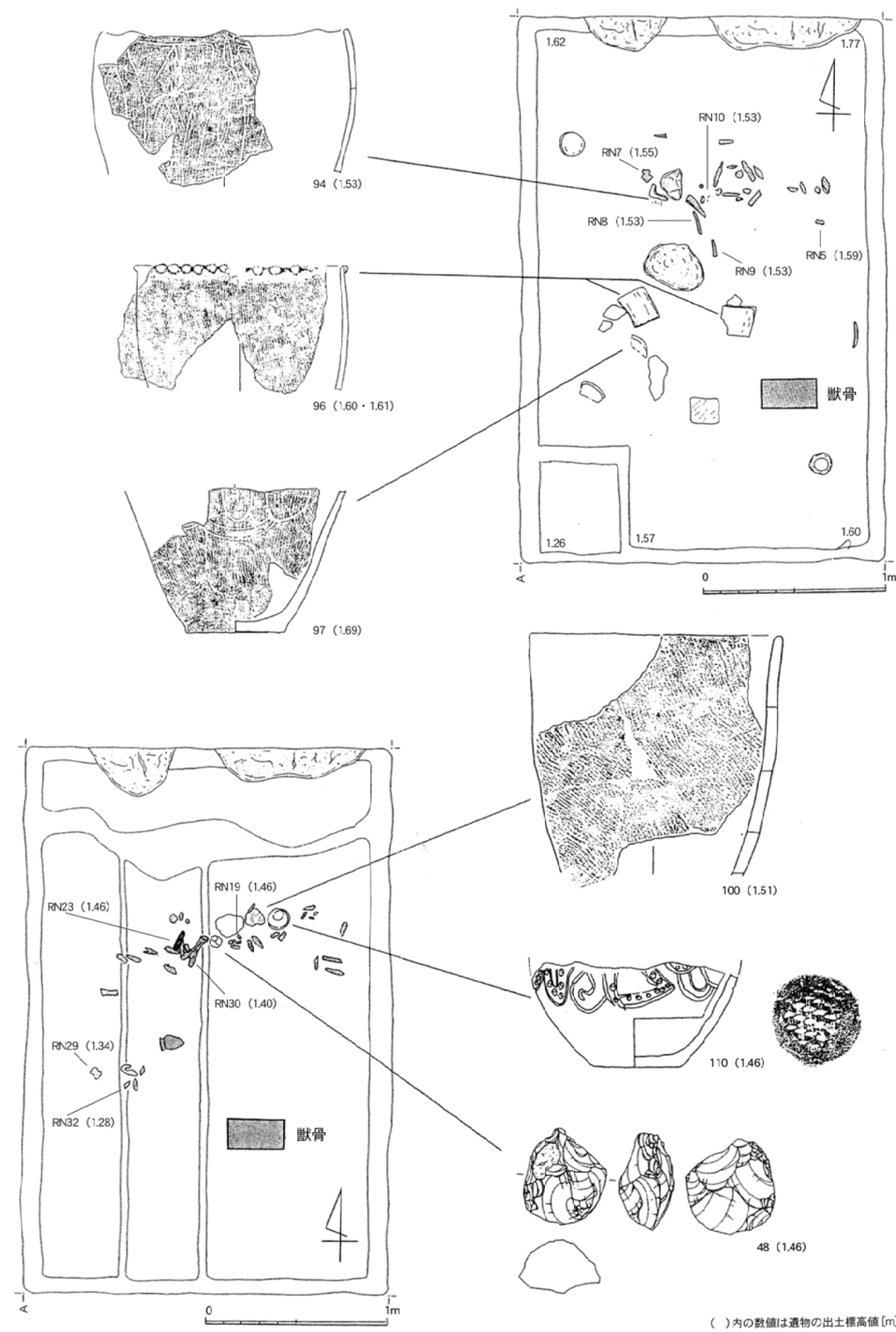


図7 第IIh調査区の遺物出土状況 (2)



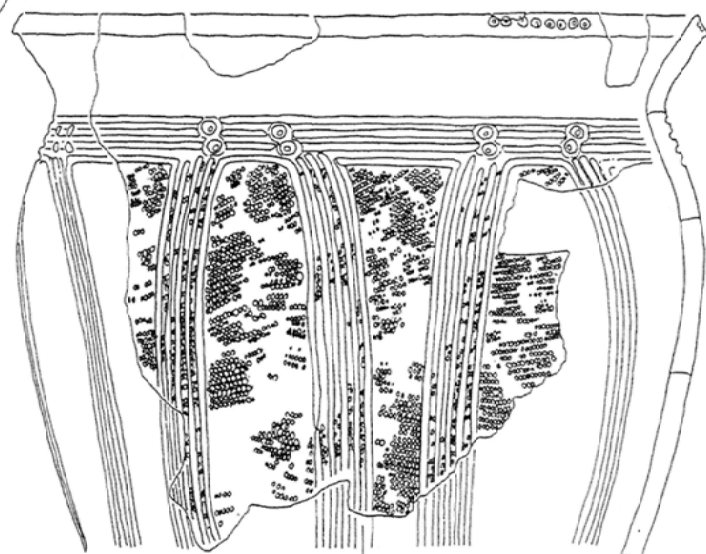
図8 第I調査区の出土土器(1)



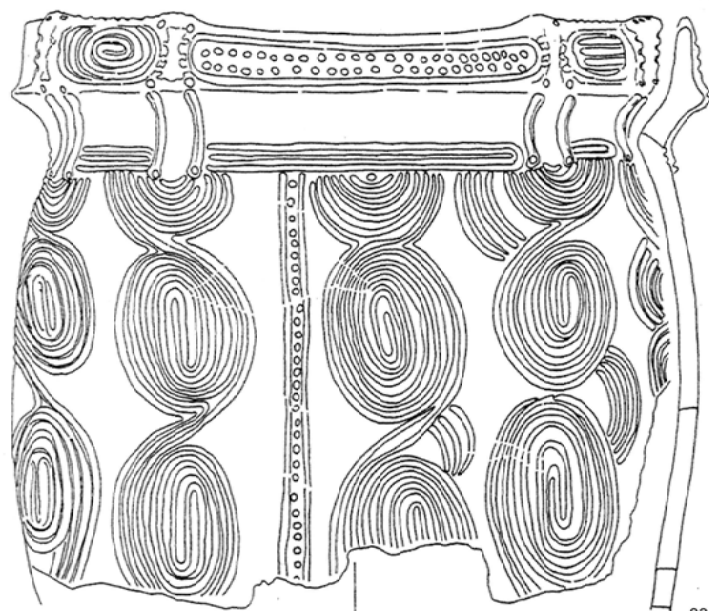
図9 第I調査区の出土土器(2)



91 (IIhSW 口径30.5現高30.0cm)



92 (IIhNE・SE 口径36.0現高29.0cm)



93 (IIh 口径30.6現高31.8cm)

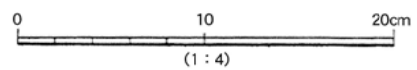
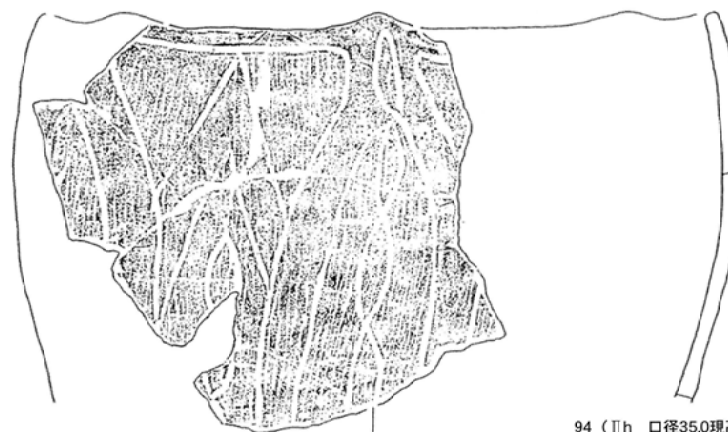
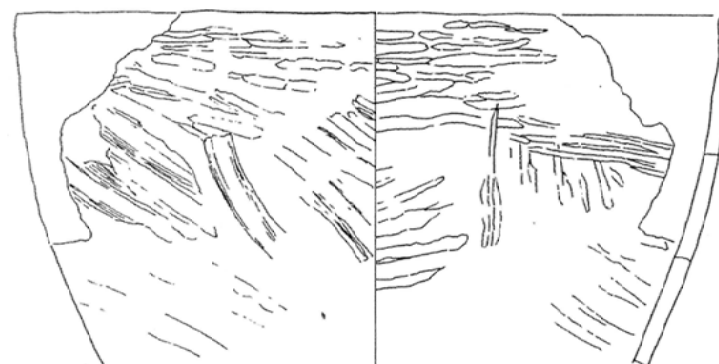


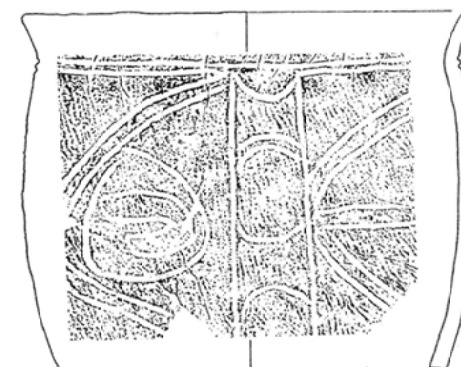
図10 第IIh調査区の出土土器 (1)



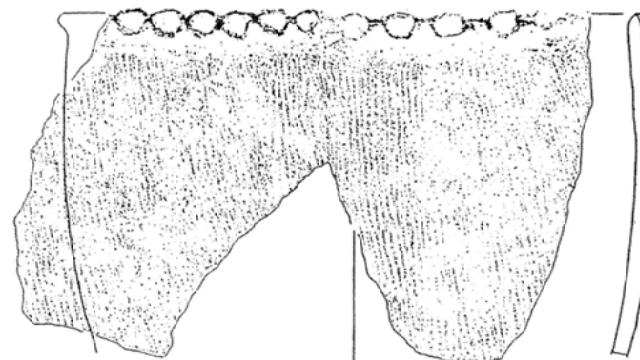
94 (IIh 口径35.0現高20.8cm)



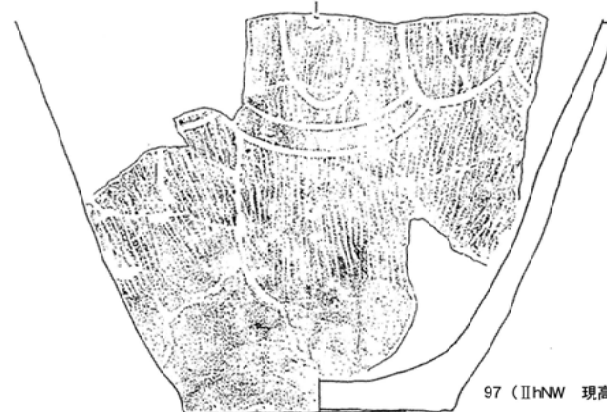
95 (IIh 口径38.6現高17.8cm)



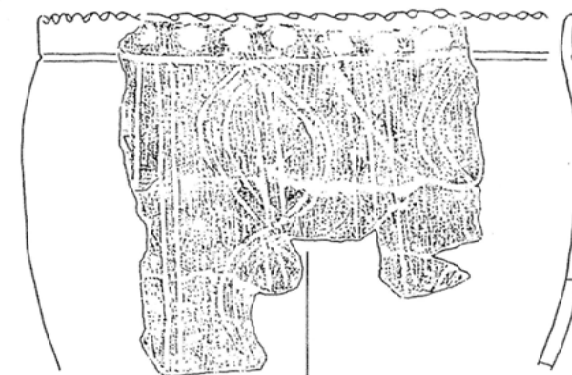
98 (IIh 口径23.2現高18.5cm)



96 (IIh 口径29.5現高18.6cm)



97 (IIhNW 現高22cm)



99 (IIh 口径27.5cm)

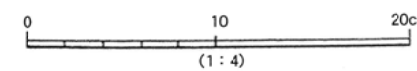


図11 第IIh調査区の出土土器 (2)

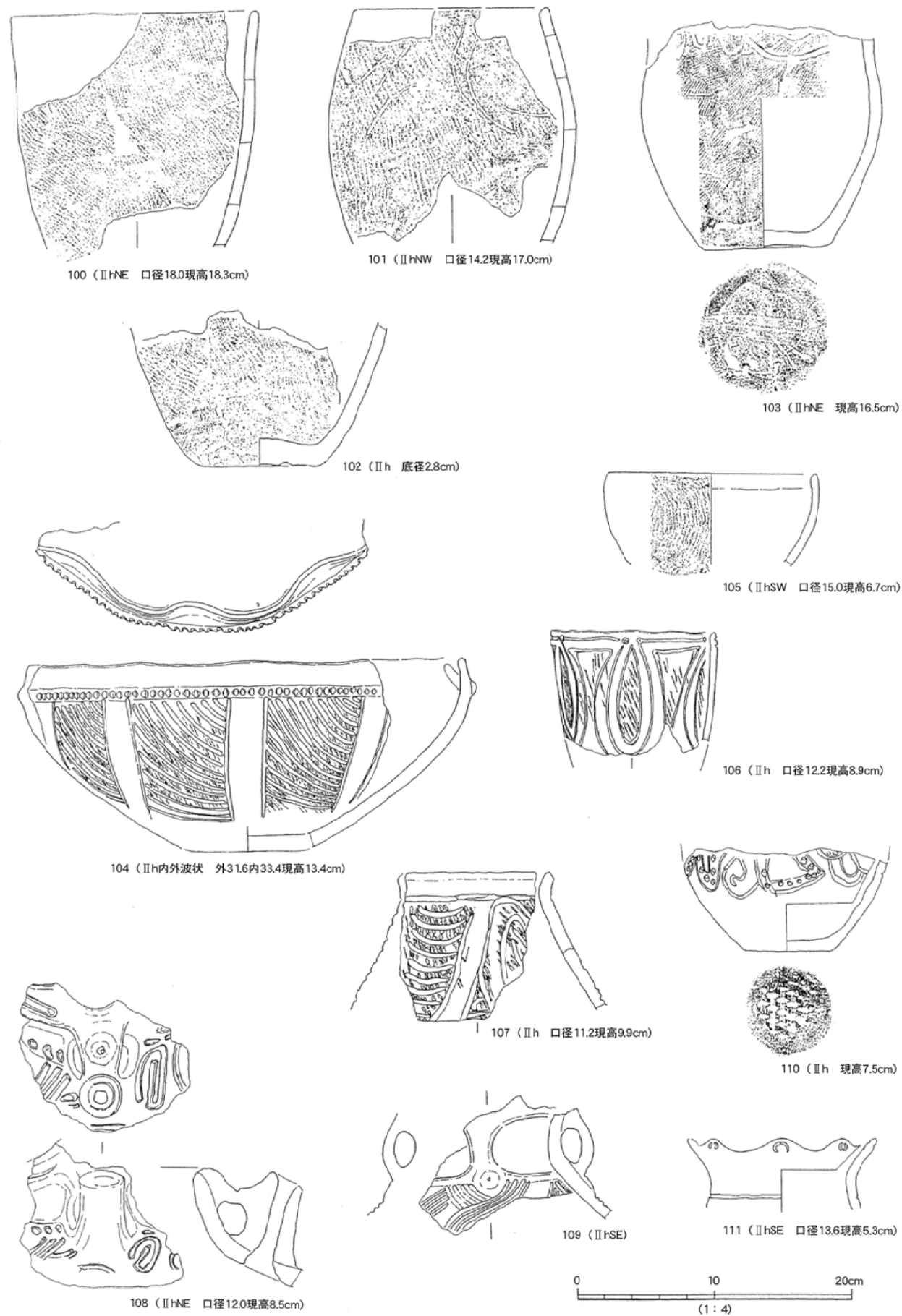


図12 第IIh調査区の出土土器 (3)

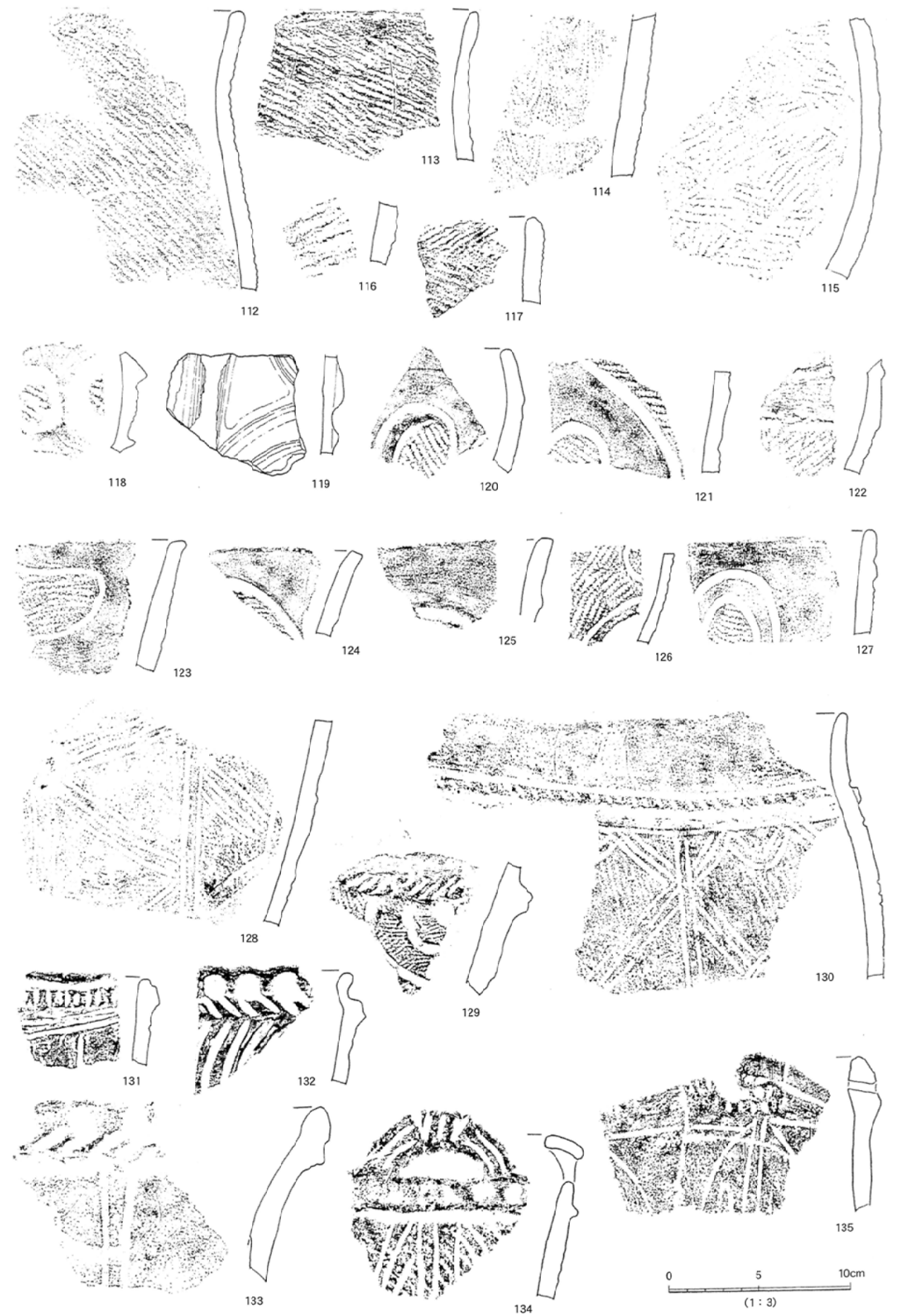


図13 第IIh調査区の出土土器 (4)

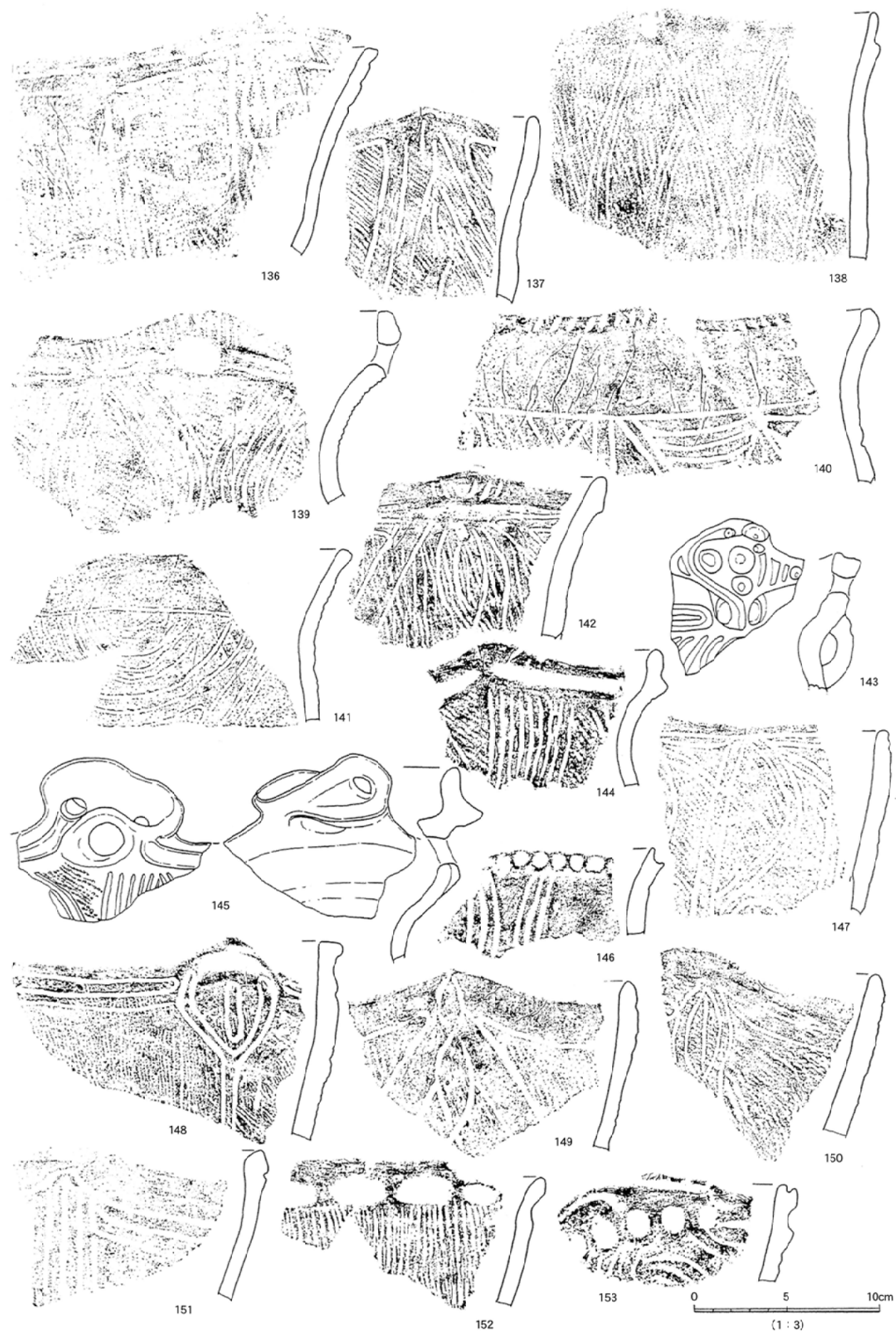


図14 第IIh調査区の出土土器 (5)

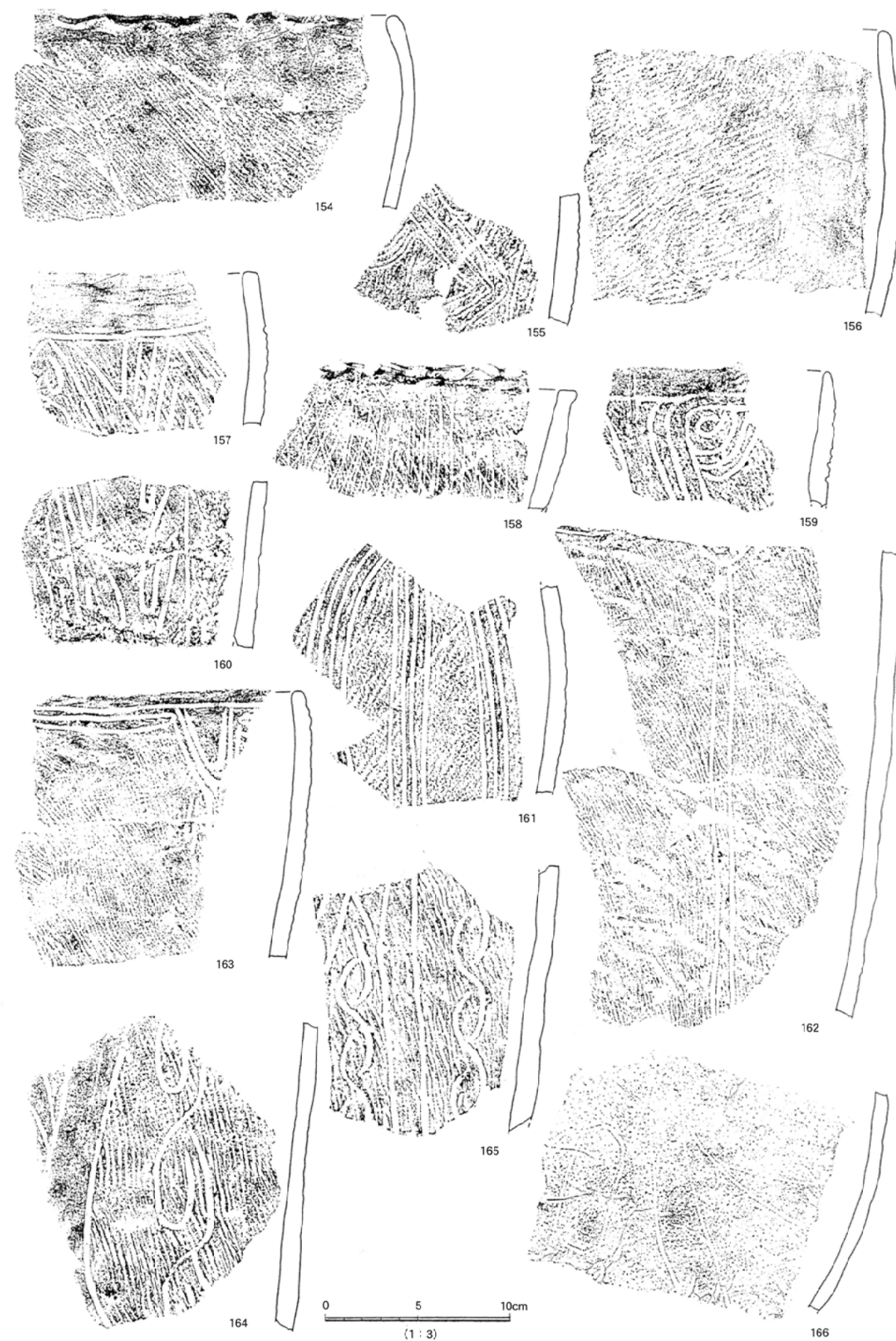


図15 第IIh調査区の出土土器 (6)



図16 第IIh調査区の出土土器 (7)

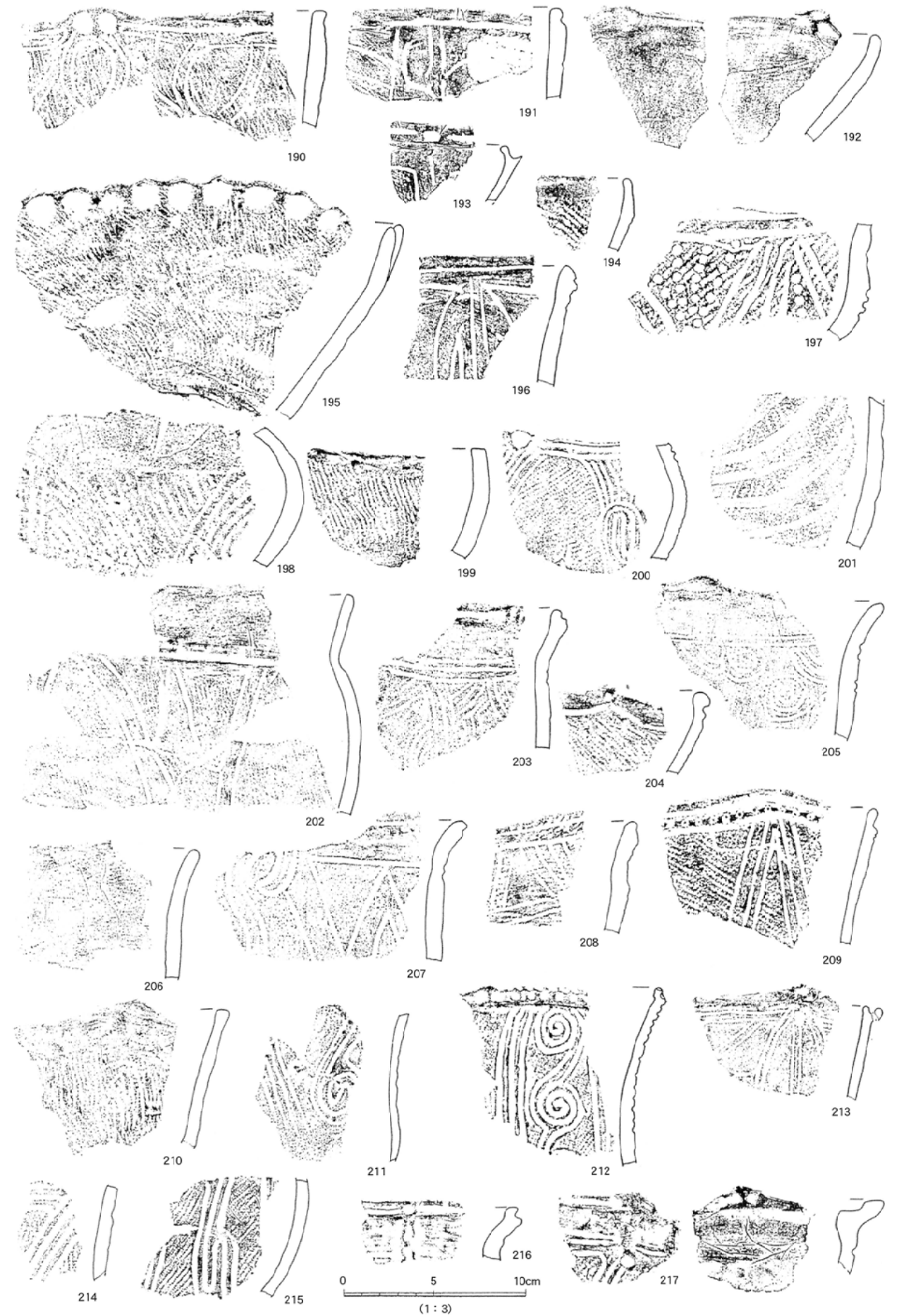


図17 第IIh調査区の出土土器 (8)

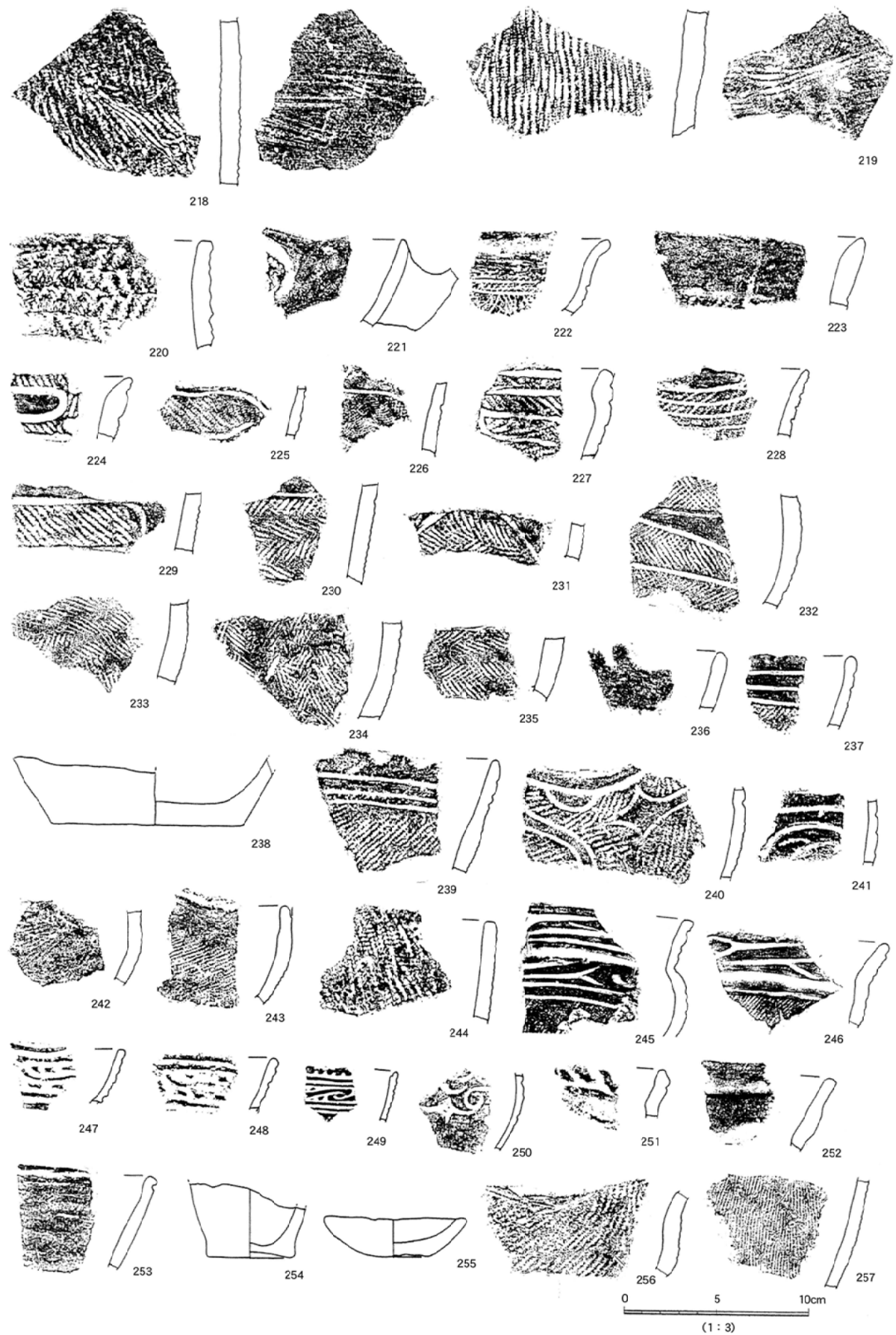


図18 第III調査区の出土土器

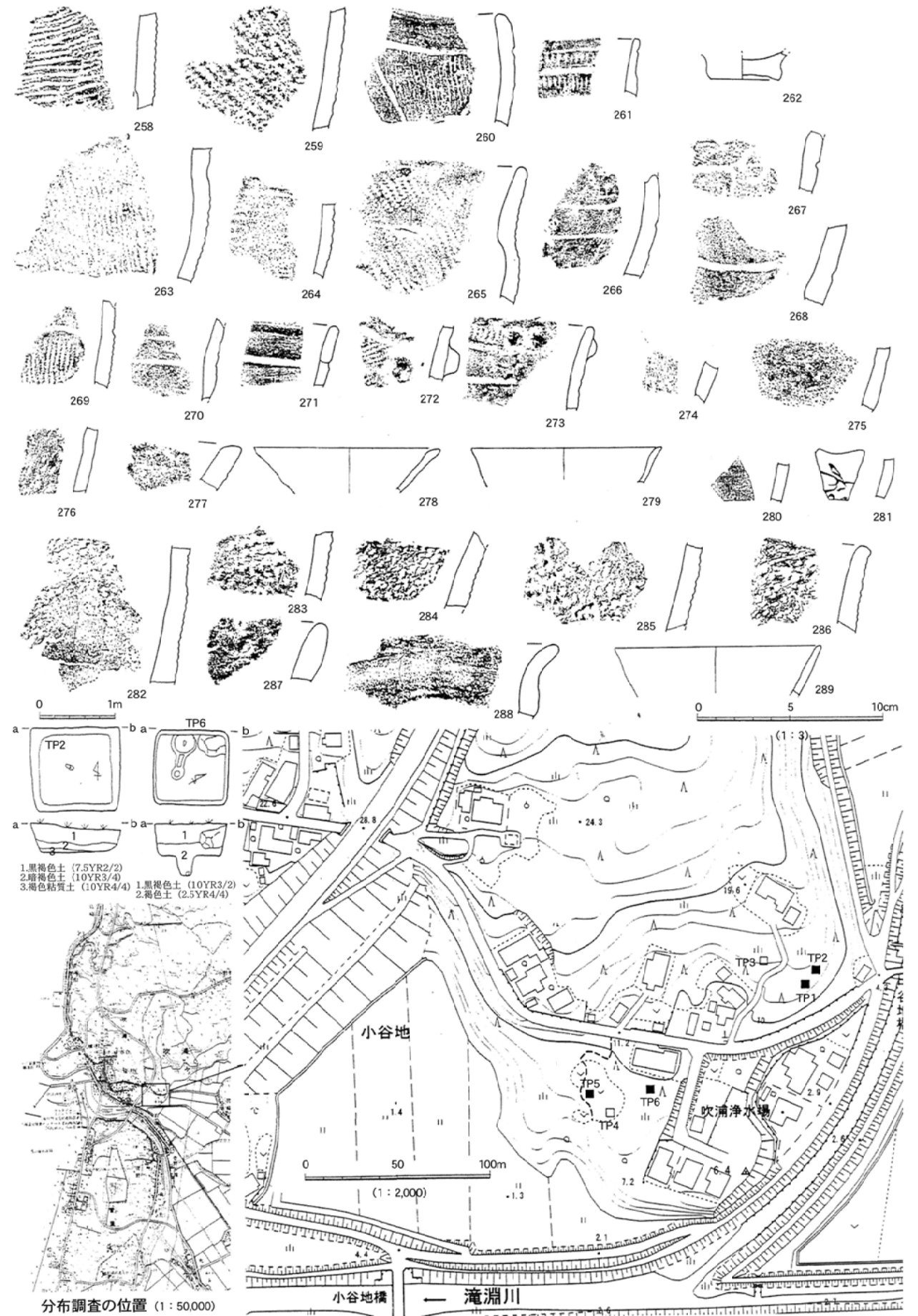


図19 第II調査区と分布調査の出土遺物 (II:258~273・TP2:274~276
 TP5:277~281・TP6:282~289)

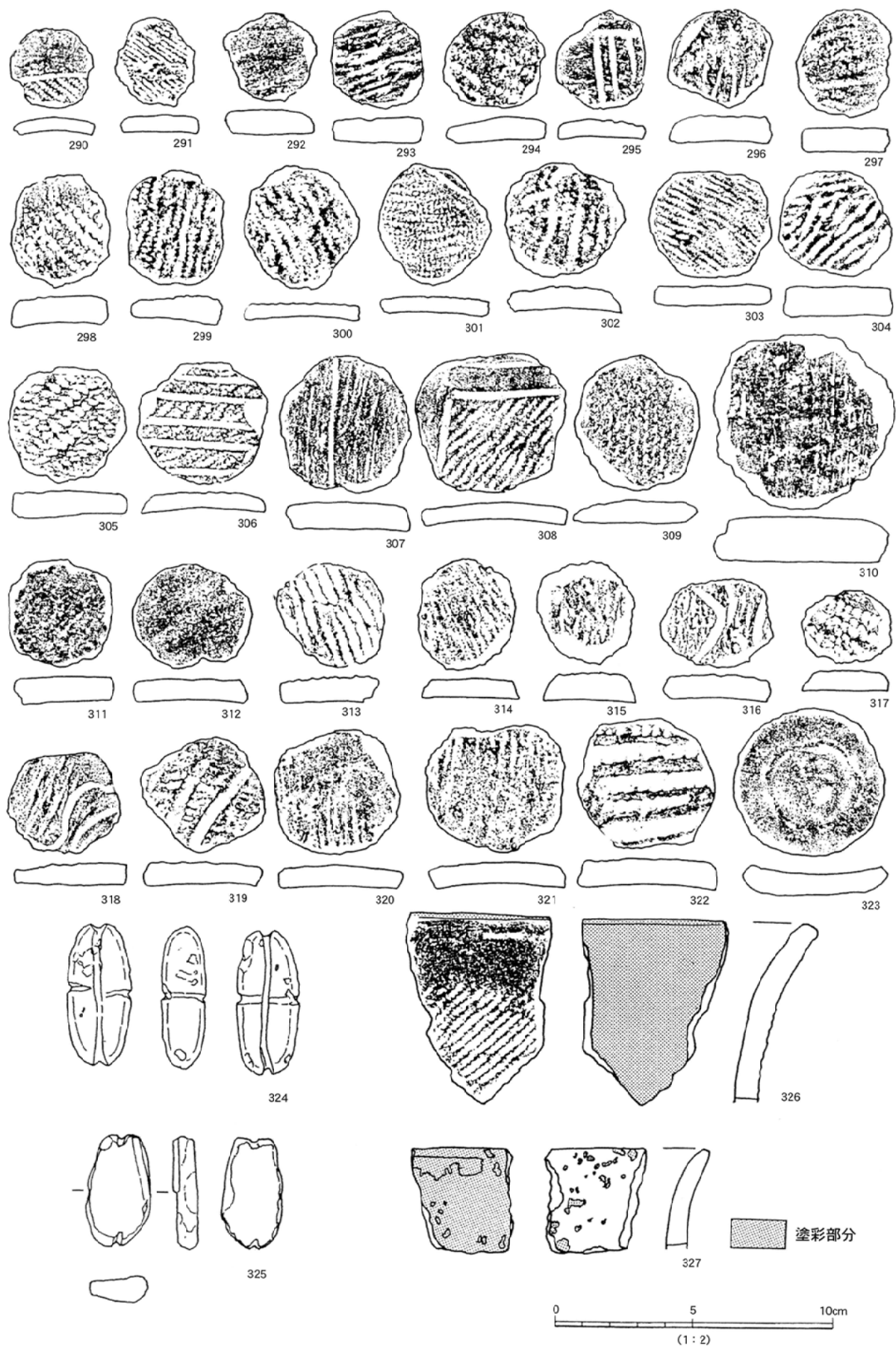


图20 出土土製品

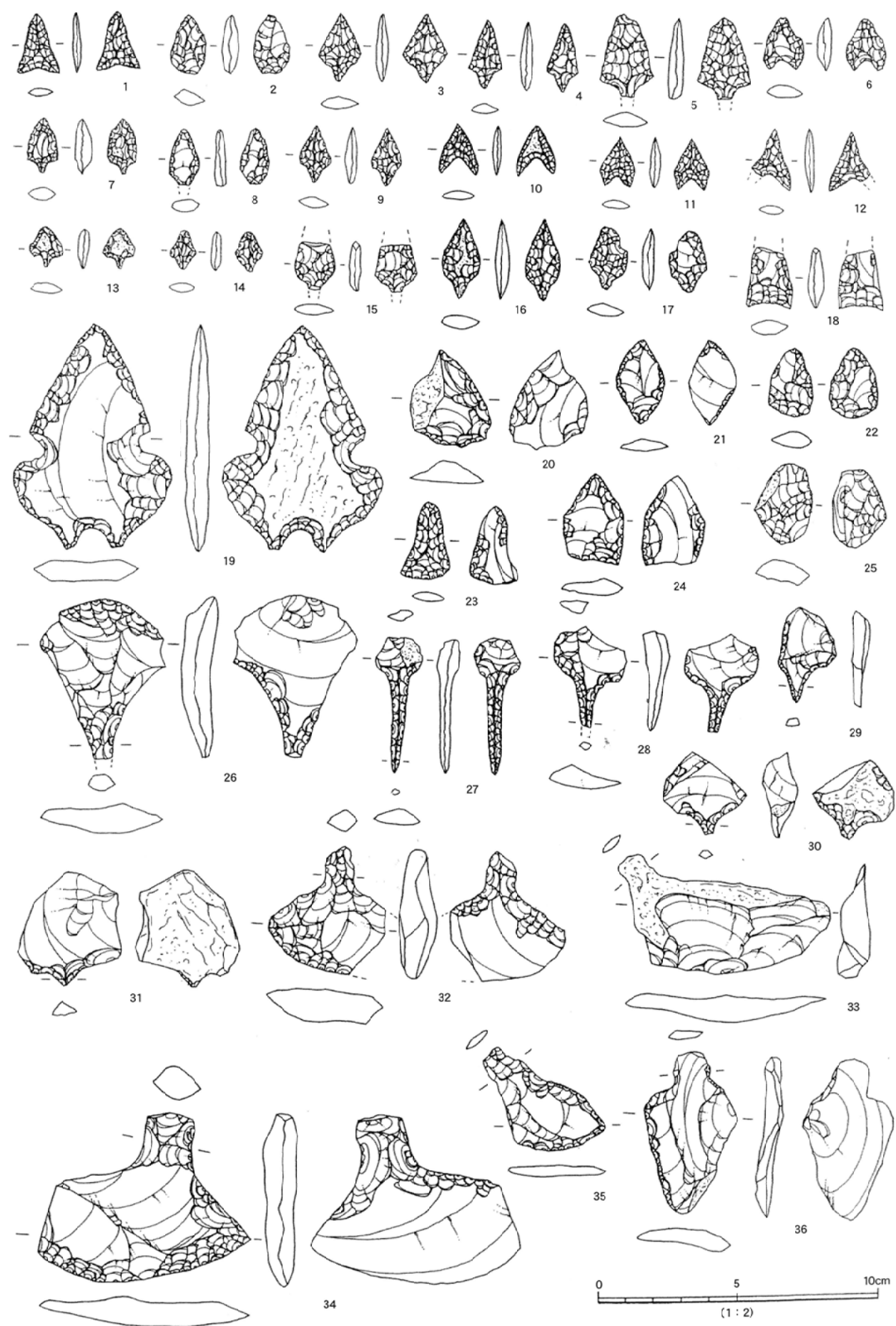


图21 出土石器 (1)

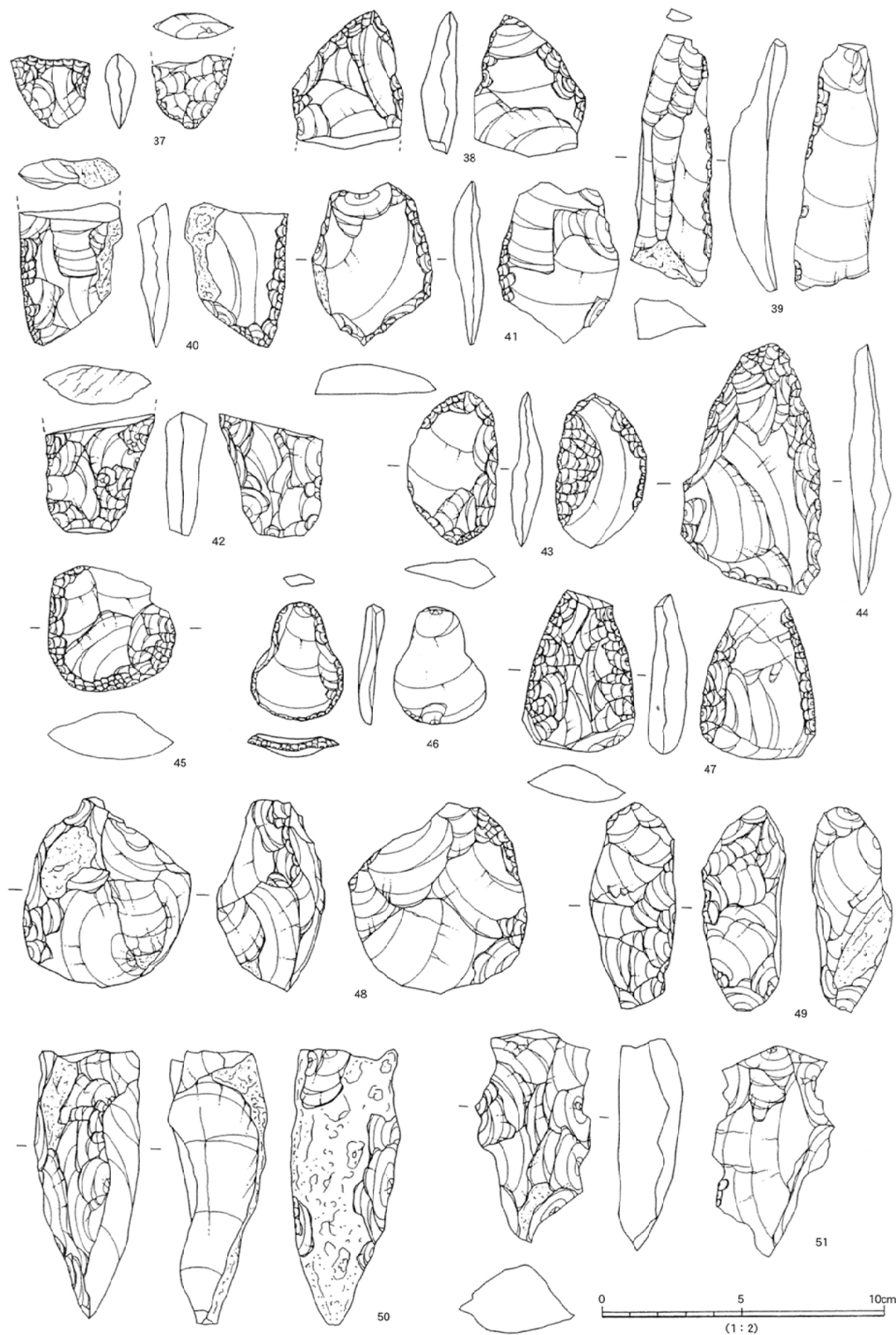


图22 出土石器 (2)

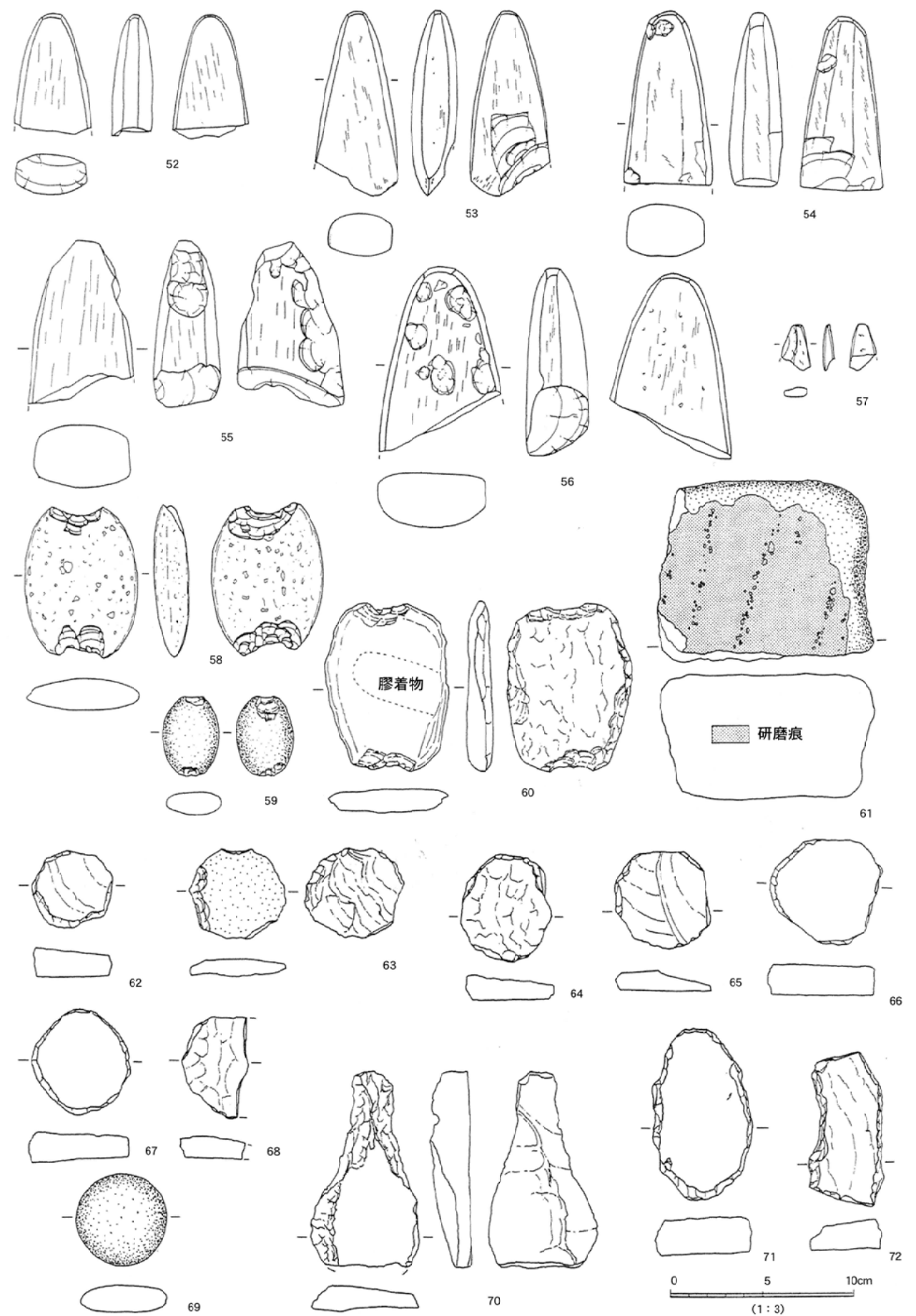


图23 出土石器 (3)

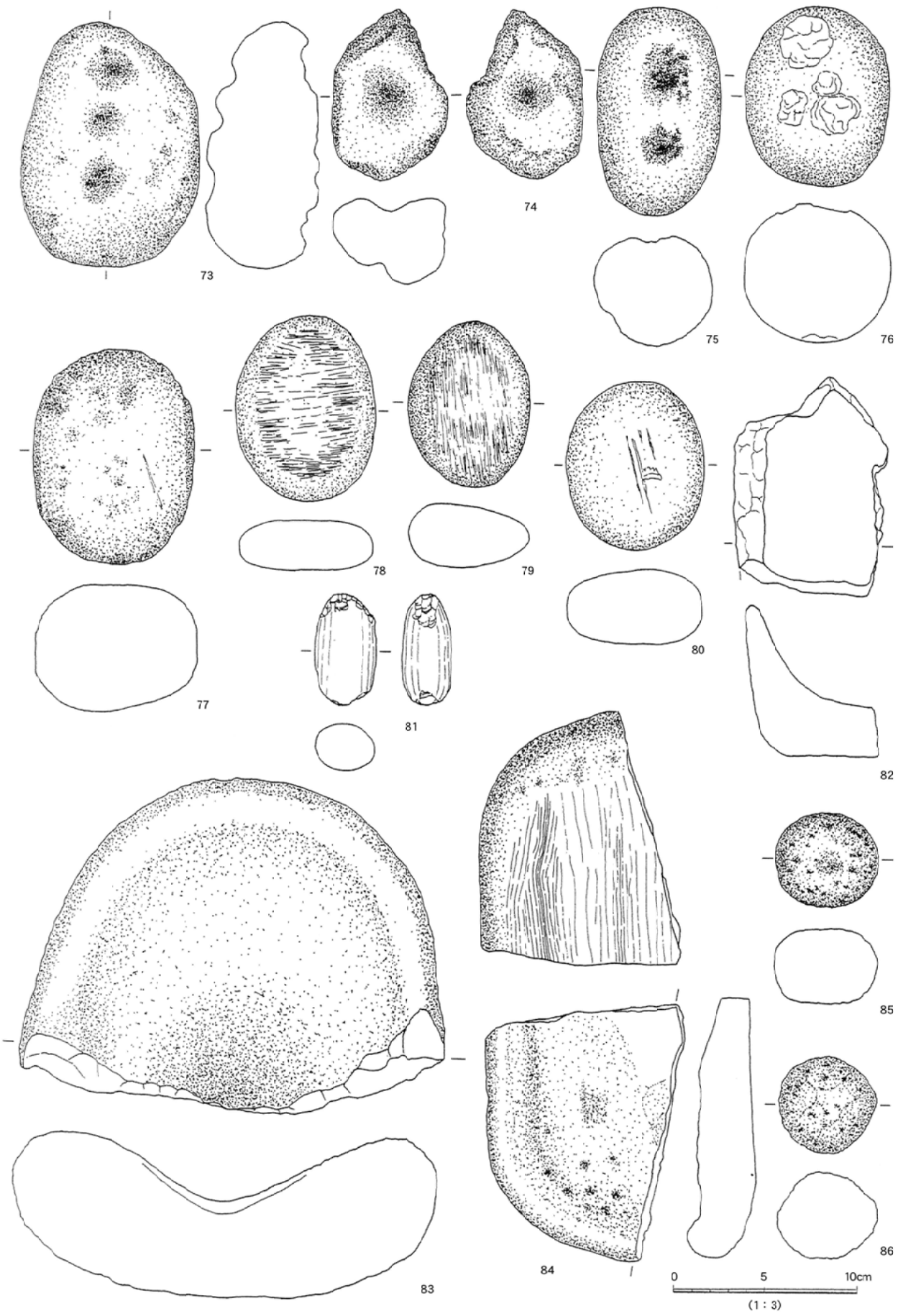
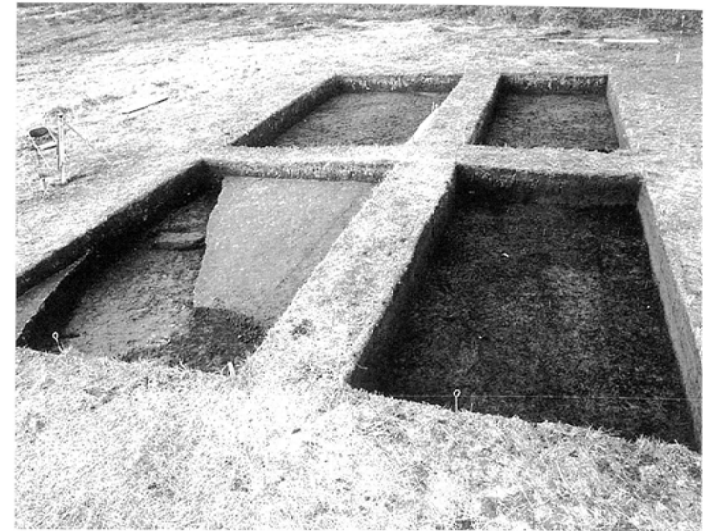


図24 出土石器 (4)



4 暗渠(SD2)の検出状況



1 調査区全景(南から)



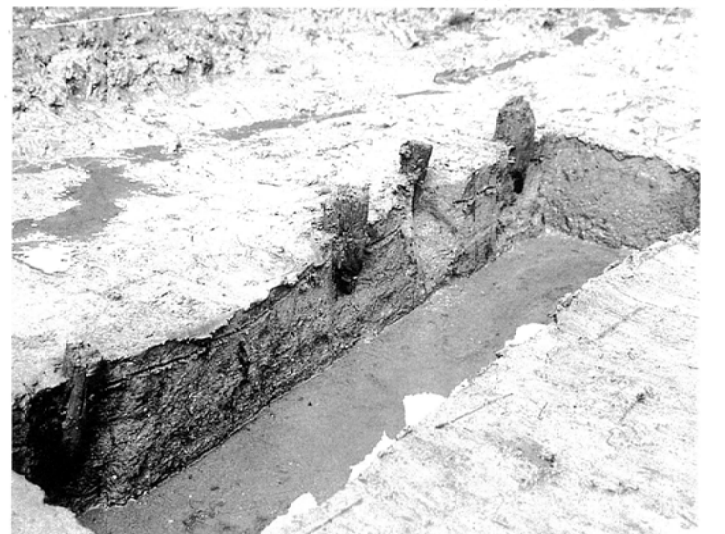
5 ロームマウンド(SX1)検出状況



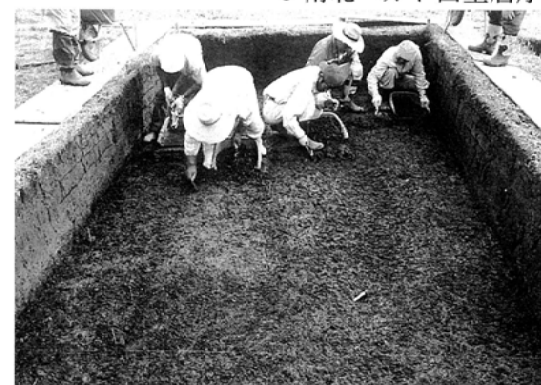
2 北西区5層遺物出土状況(南から)



6 南北ベルト西壁層序



3 柱列(SA1)検出状況



7 南東区5層調査状況(北から)

第I区の調査



2 調査区斜面部完掘状況(南から)



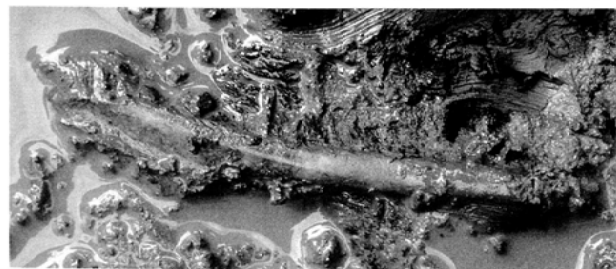
1 調査区平坦部完掘状況(南から)



3 第IIh区状況(南から)



4 獸骨類出土状況(第IIh調査区北端5層)



6 アビ類上腕骨出土状況(第IIh区5層)



5 第IIh調査区層序(西壁)

第II区の調査



2 石皿・磨石出土状況



3 磨製石斧(53)出土状況



1 調査区全景(東から)

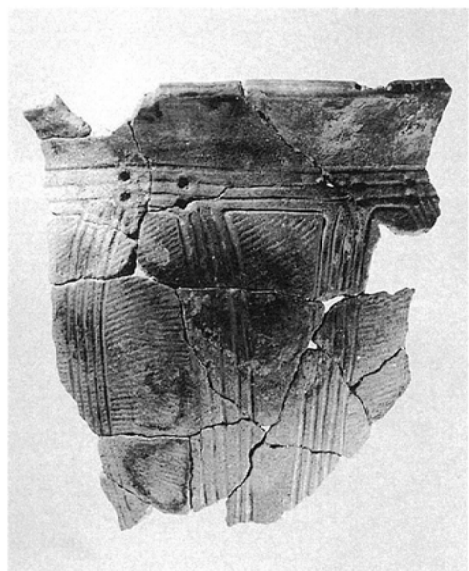


4 調査区西端遺物出土状況(北から)

第III区の調査



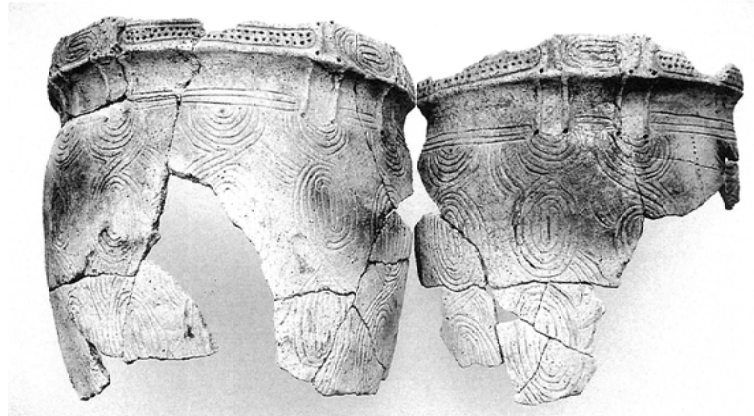
▲ 91



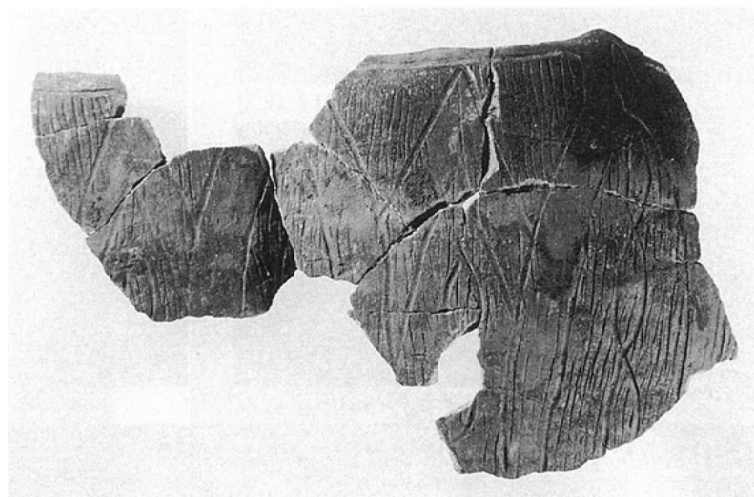
▲ 92



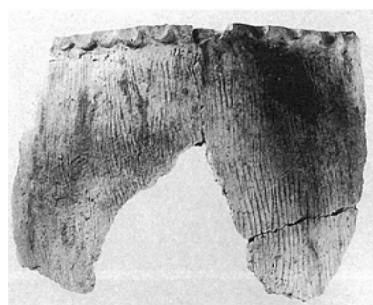
▲ 98



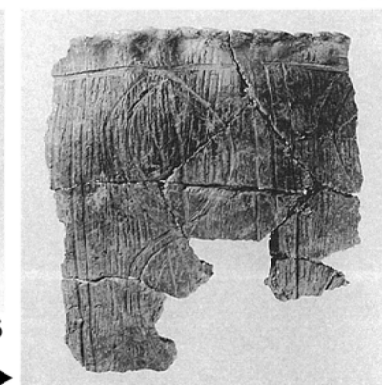
▲ 93



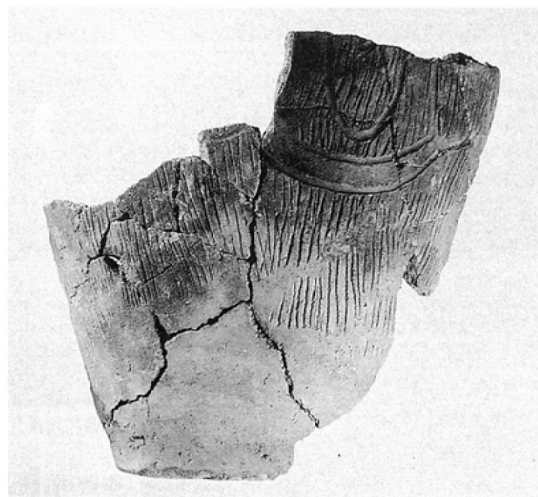
▲ 94



▲ 96



99▶



◀ 97

第IIh区出土の土器群 (1)



▲ 100



▲ 103



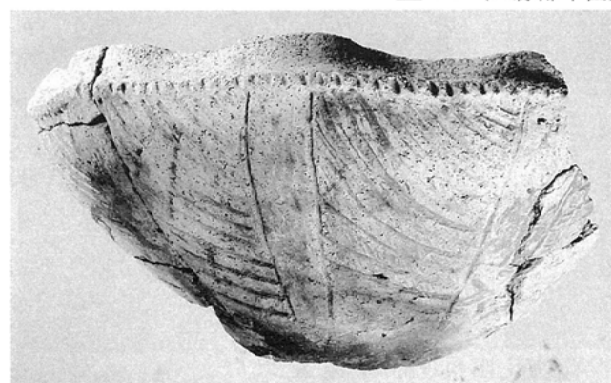
▲ 106



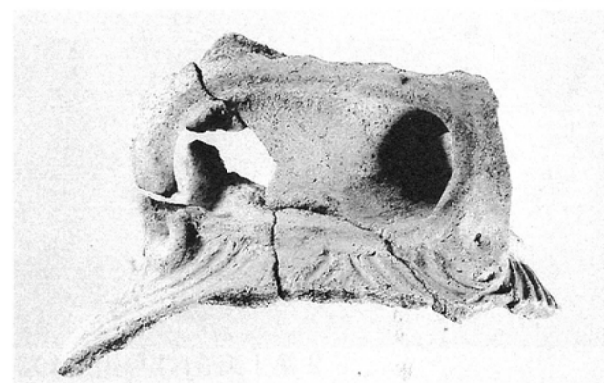
▲ 104(口縁部平面)



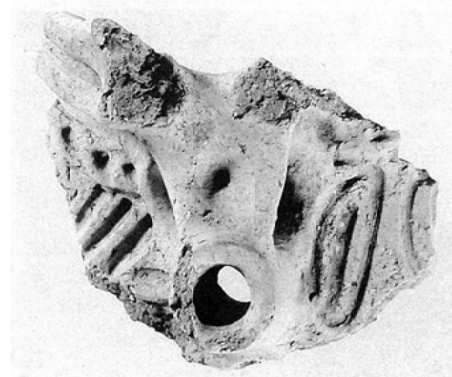
▲ 110



▼ 108(正面)



▲ 109



▲ 108(側面)

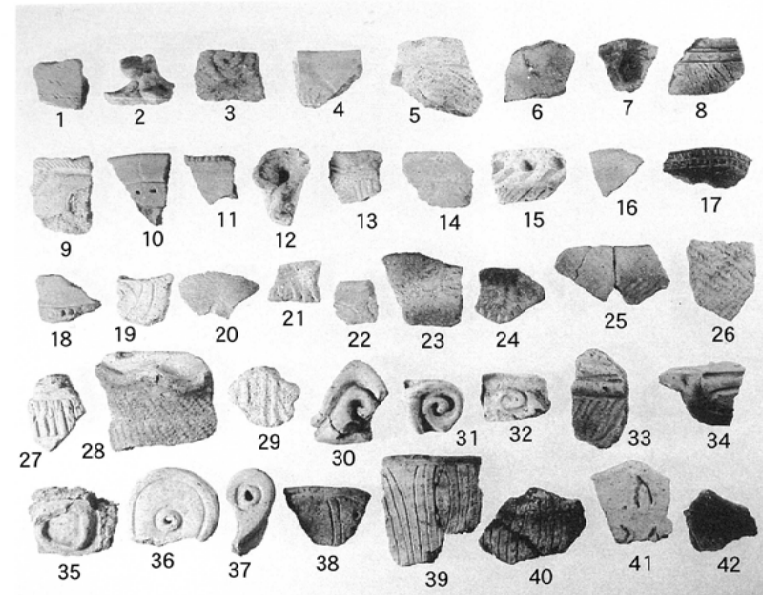


▲ 107

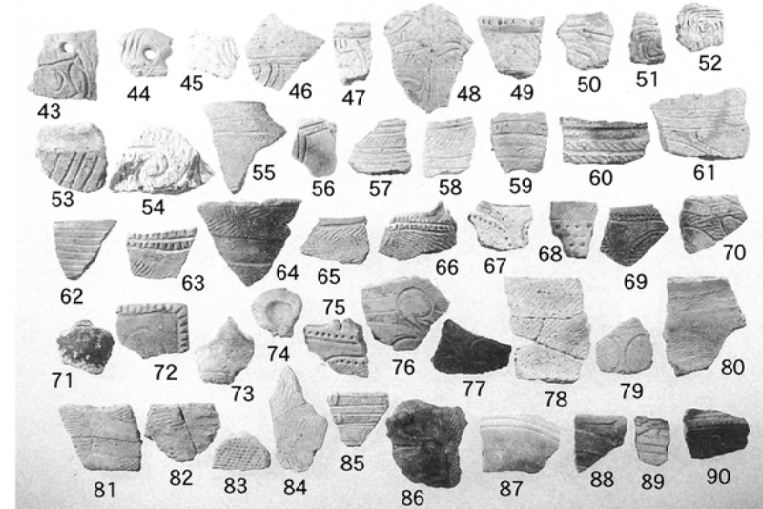


◀ 111

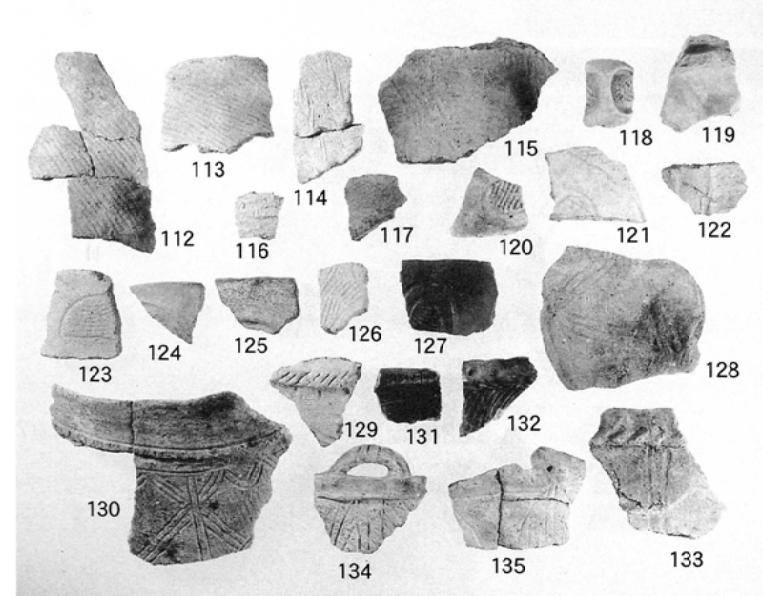
第IIh区出土の土器群 (2)



1 第I調査区1層~5層出土土器 図8に対応



2 第I調査区5層出土土器 図9に対応



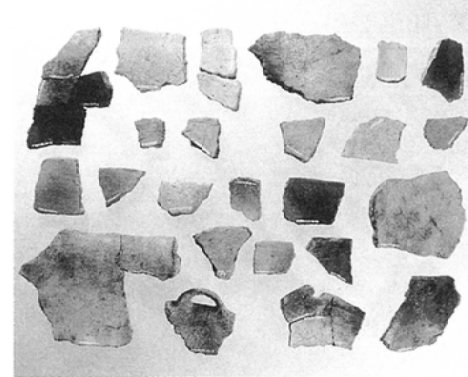
3 第IIh調査区出土土器(1) 図13に対応



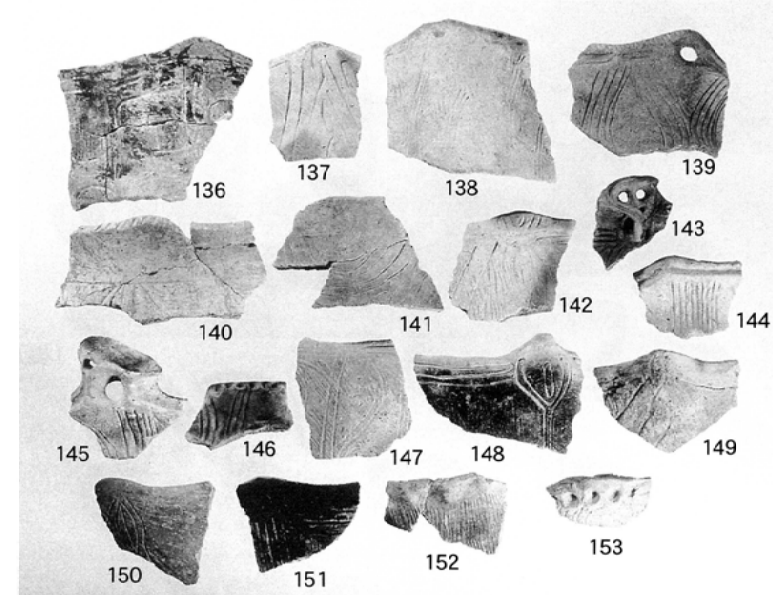
(裏)



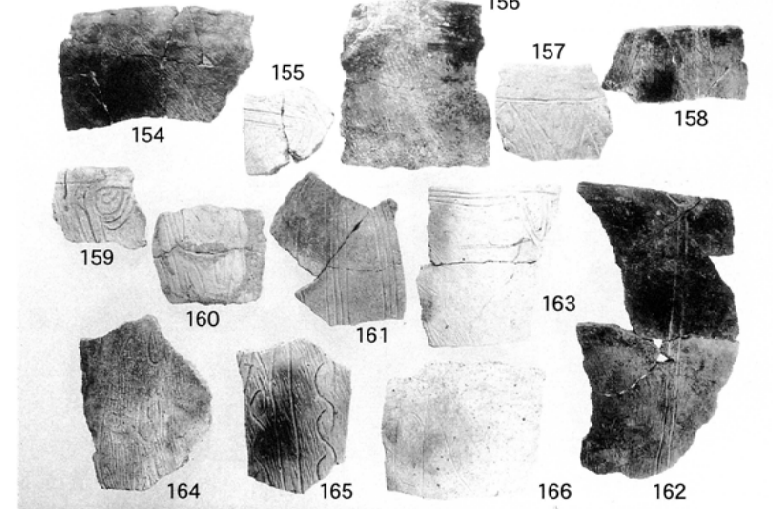
(裏)



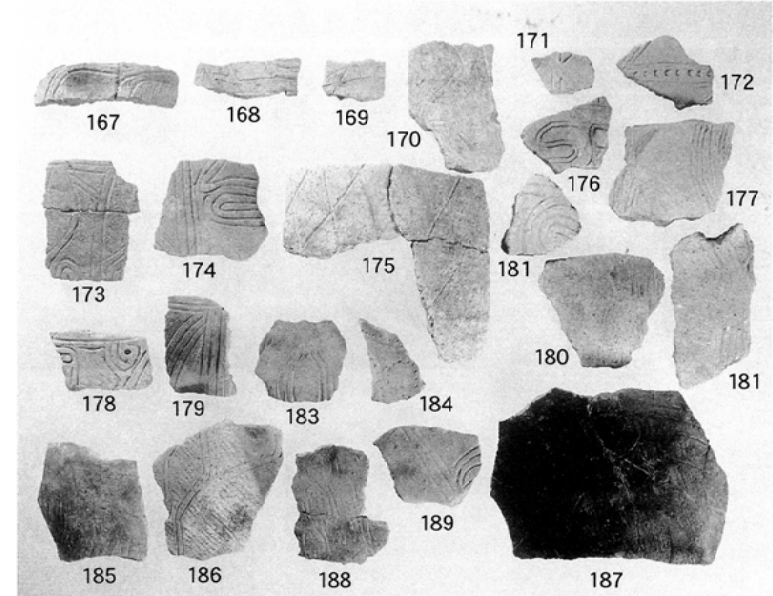
(裏)



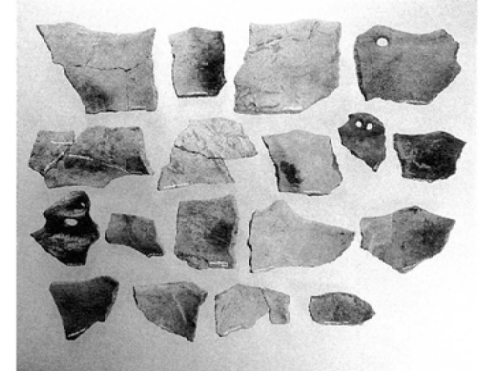
4 第IIh調査区出土土器(2) 図14に対応



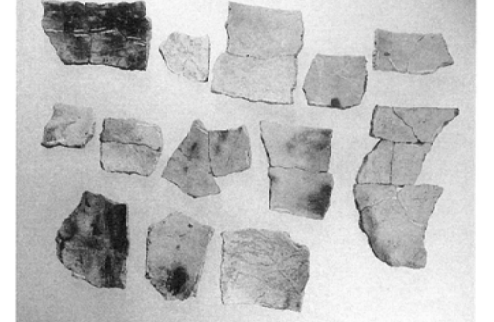
2 第IIh調査区出土土器(3) 図15に対応



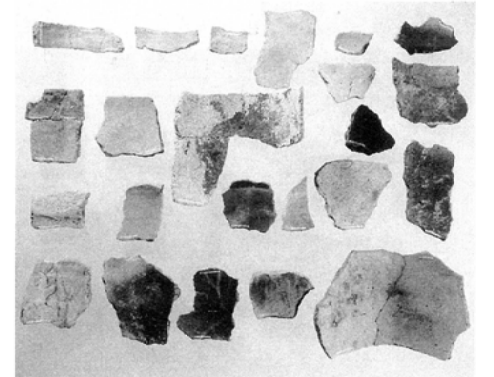
3 第IIh調査区出土土器(4) 図16に対応



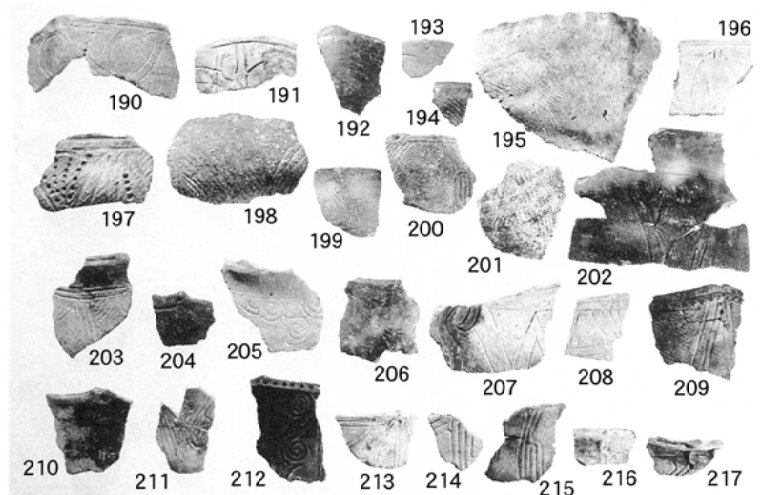
(裏)



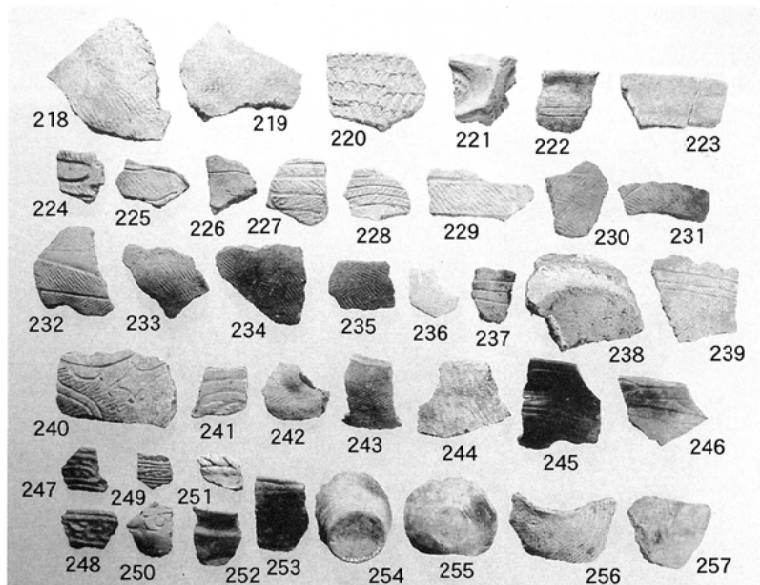
(裏)



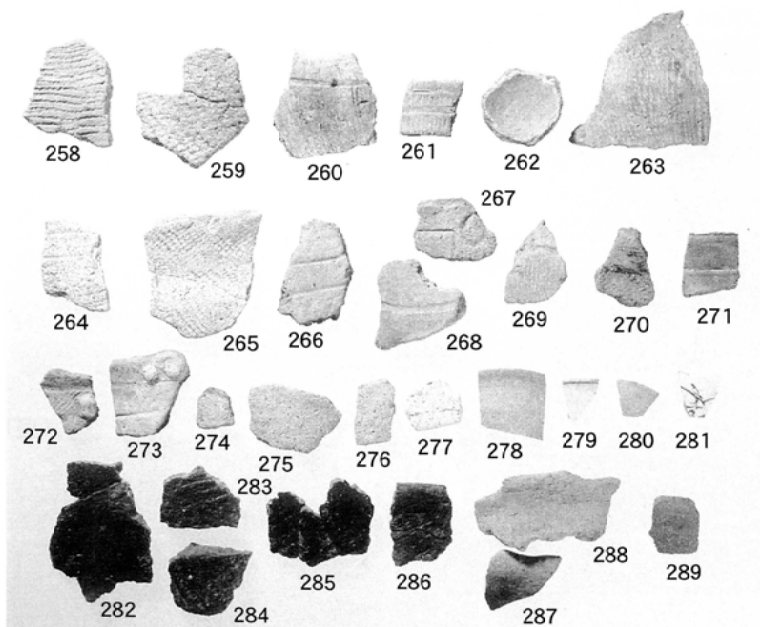
(裏)



6 第IIh調査区出土土器(4) 図17に対応

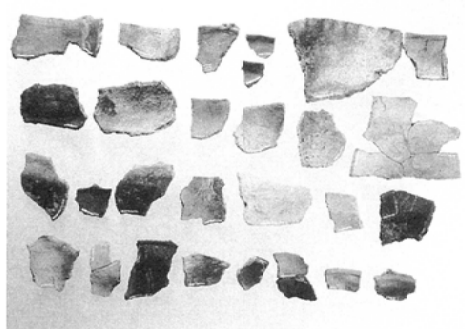


7 第III調査区出土土器 図18に対応

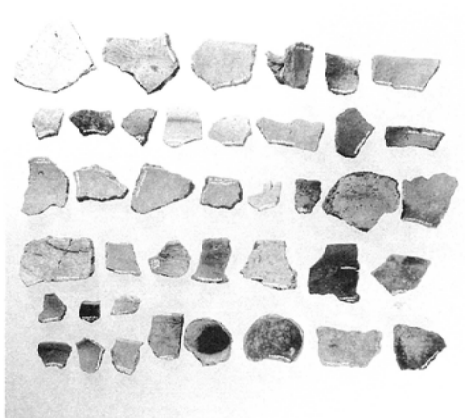


8 第II調査区と分布調査の出土遺物 第II調査区258~273
TP2:274~276 TP6:282~289

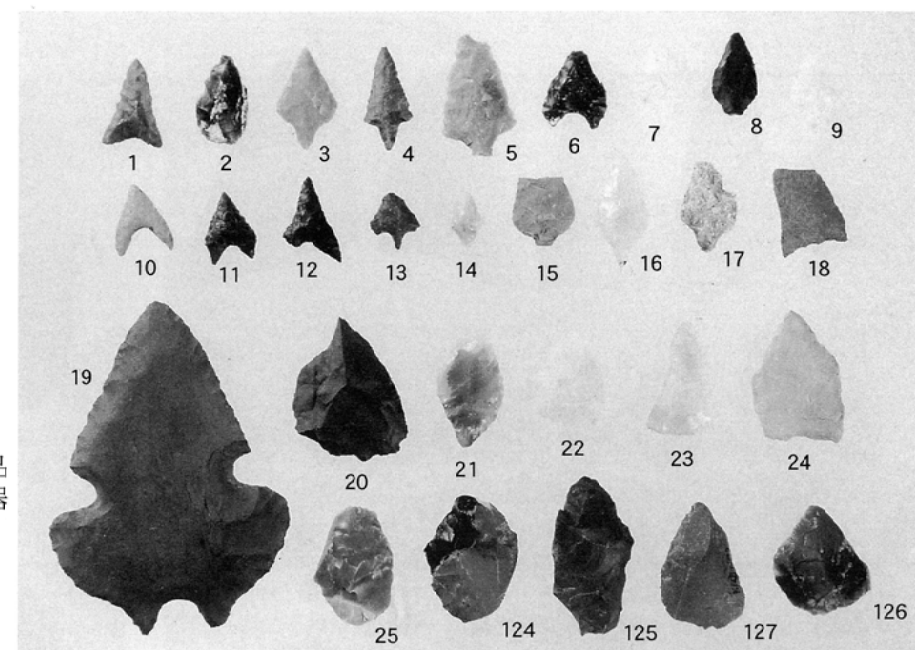
第II・IIh・III区と分布調査の出土遺物



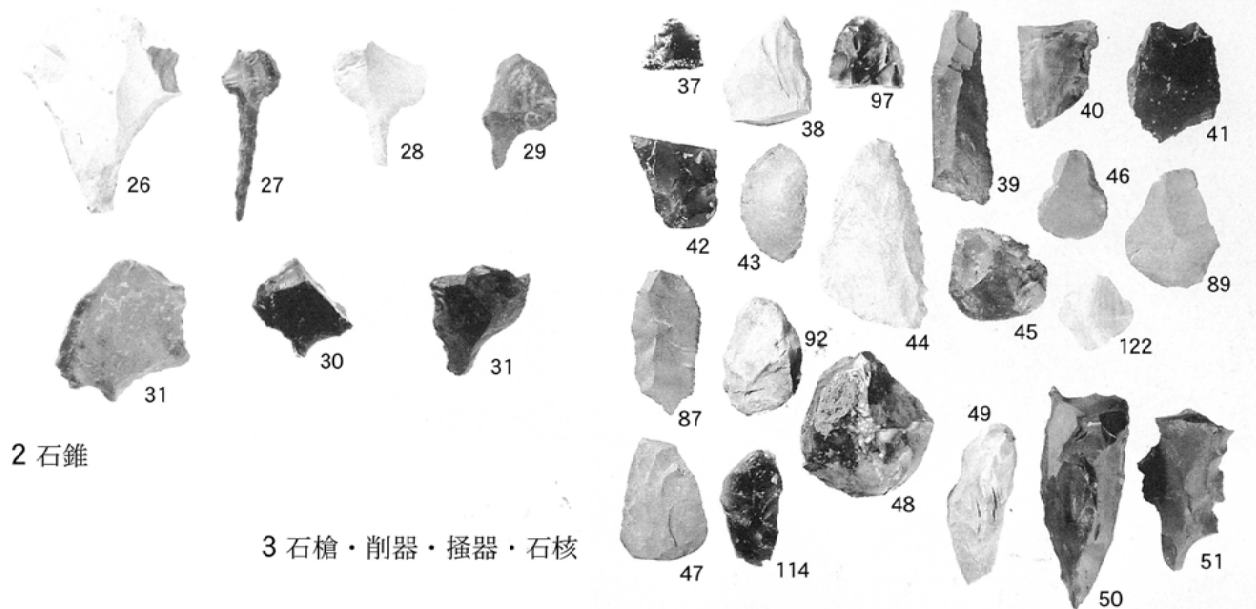
(裏)



(裏)

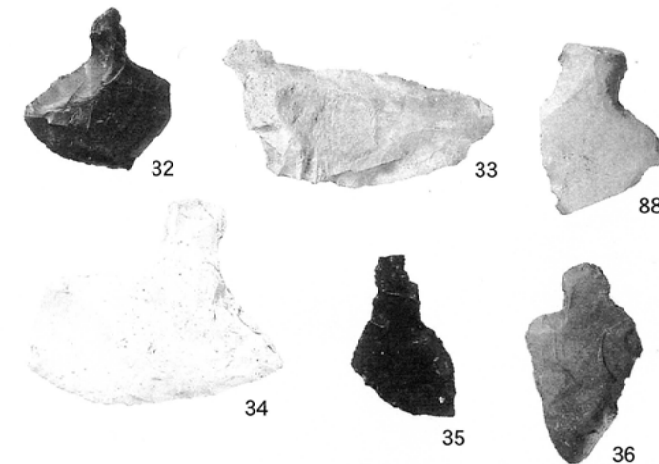


1 石鏃・石鏃未成品
・異形石器



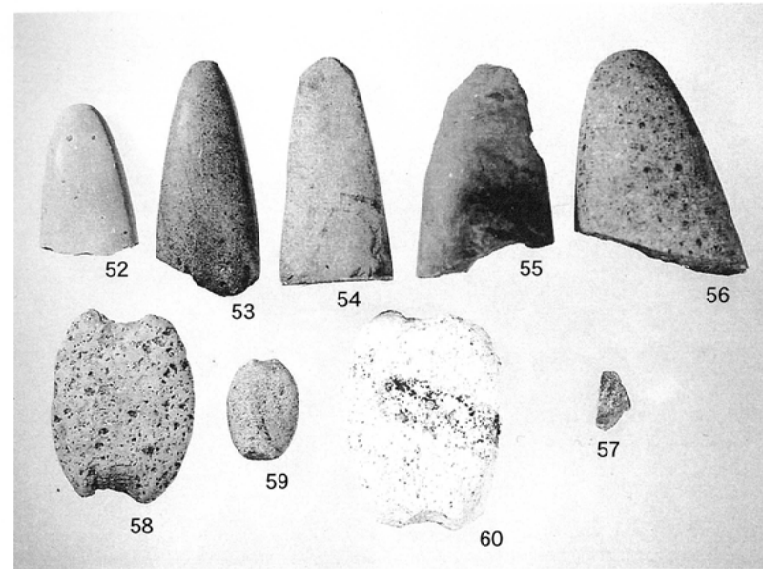
2 石錐

3 石槍・削器・搔器・石核

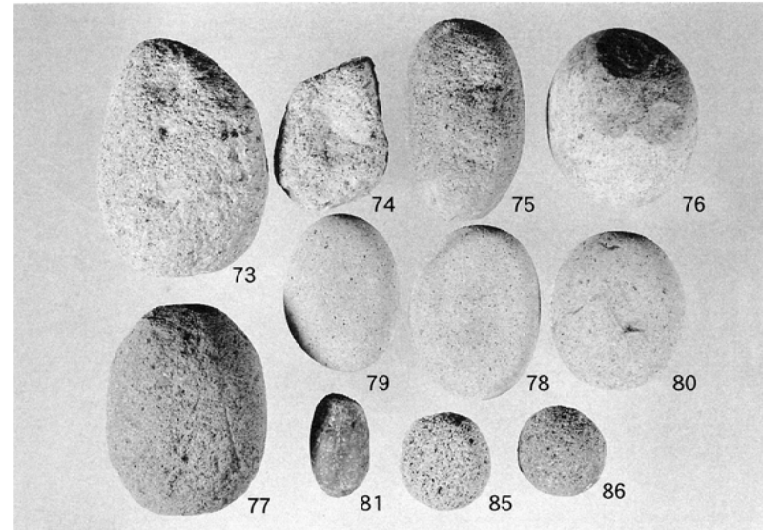


4 石匙

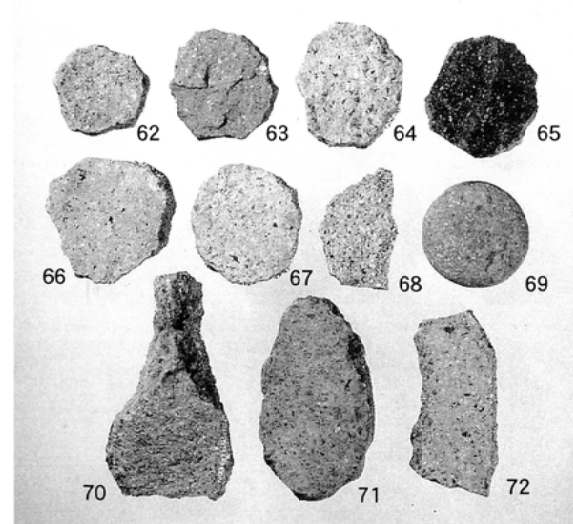
出土石器 (1)



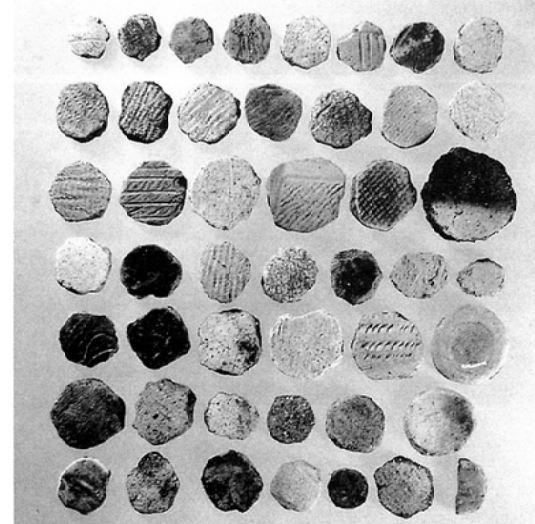
1 磨製石斧・石錘



3 磨石・凹石・叩石



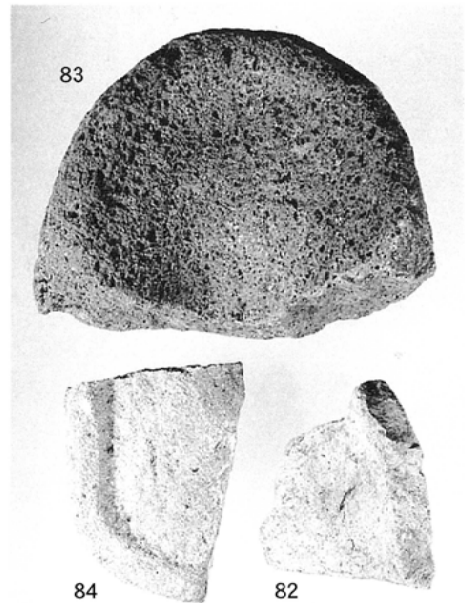
5 円盤状石製品(未成品含む)



6 円盤状土製品(290~323)



2 土錘 324(I区出土)325(IIh区出土)



4 石皿

報告書抄録

| ふりがな | こやまぎいせきだいじゅうにじちようさほうこくしよ | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|--|----------------------------------|---|--------------------|---|-------------|-----------------------------|--|--|
| 書名 | 小山崎遺跡第12次調査報告書 | | | | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 遊佐町埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第5集 | | | | | | | | | |
| 編集者名 | 佐藤 禎宏 大川 貴弘 | | | | | | | | | |
| 編集機関 | 遊佐町教育委員会 | | | | | | | | | |
| 所在地 | 〒999-8301 山形県飽海郡遊佐町遊佐字舞鶴211番地 | | | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2006年3月31日 | | | | | | | | | |
| ふりがな
所収遺跡名 | ふりがな
所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積
(㎡) | 調査原因 | | |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | | | |
| こやまぎいせき
小山崎遺跡 | やまがつけんあくみ
山形県飽海
郡遊佐町吹
浦字七曲
なまがりせきひめし
七曲堰東 | 461 | 2214 | 39度
04分
18秒 | 139度
53分
26秒 | 20050905
)
20051124 | 168.0 | 重要遺跡
確認のた
めの学術
調査。 | | |
| こやちいせき
小谷地遺跡 (既存) | ふくうらあざ
吹浦字
こやち
小谷地 | 461 | 2212 | 39度
04分
8秒 | 139度
53分
14秒 | 20051019 | 3 | 分布調査 | | |
| ものみとうげしいせき しんき
物見峠C遺跡 (新規) | ふくうらあざ
吹浦字
ものみとうげ
物見峠 | | | 39度
04分
10秒 | 139度
53分
17秒 | 20051019 | 3 | 分布調査 | | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | | | |
| こやまぎいせき
小山崎遺跡 | 集落跡 | 縄文時代
早期未葉
前期
中期
後期
晚期中葉 | I区
打ち込み杭列
IIh区
土器・獣骨投棄場 | 縄文土器
石器・石製品
土製品
異形石器
骨角器、魚骨・獣骨類 | | 後期前葉の復元可能
な、まとまりのある
土器群の検出。それ
に伴出した多種の魚
骨・獣骨類と2点の
骨角器。 | | | | |
| こやちいせき
小谷地遺跡 | 包蔵地 | 縄文時代
前期~平
安、近世 | ピット | 縄文土器片23 石器2
陶磁器片3 須恵器片1 | | 前期の包含層の確認 | | | | |
| ものみとうげしいせき
物見峠C遺跡 | 包蔵地 | 縄文時代 | | 縄文土器片3 剥片6 | | 分布調査による発見 | | | | |

遊佐町埋蔵文化財調査報告書 第5集
小山崎遺跡第12次発掘調査報告書

平成18年3月31日発行
編集 小山崎遺跡発掘調査団(佐藤禎宏・大川貴弘)
発行 遊佐町教育委員会
山形県飽海郡遊佐町遊佐字舞鶴211
TEL(0234)72-3311 FAX(0234)72-3314
印刷 小鷹印刷有限会社
山形県酒田市若原町4-20